

パーソナル コンピューター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



S400

PCV-R70/R60/R50/R30

警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることもあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～11ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落したり、キャビネットを破損したとき



- ① 電源を切る
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜く
- ③ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながる場合があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のCD-ROM / CD-RWドライブが搭載されています。

- 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。

また、著作権者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。

コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

目次

⚠ 警告・⚠ 注意	6
モデルの構成	12
こんなことができます	13
マニュアルの使いかた	16
オンラインマニュアルの使いかた	17
各部の名称と働き	19

操作編

基本的な使いかた	
電源を入れる	24
電源を切る	26
再起動する	27
マウスを使う	28
ホイールボタンの使いかた	31
キーボードを使う	33
文字を入力する	36
日本語入力を準備する	36
入力のかたを選ぶ	38
文字を入力する	39
CD-ROM / CD-RWを使う	45
ディスクを入れる	47
使用できるディスク	50
フロッピーディスクを使う	51
フロッピーディスクを入れる	51
データを書き込み禁止にする	52
初期化について	53
使用できるフロッピーディスク	53

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ	55
i.LINK対応機器から動画を取り込む	56
動画を電子メールで送る	57
i.LINK対応機器から静止画を取り込む	58
静止画を電子メールで送る	59
ビデオ編集をする (PCV-R70のみ)...	60
テレビ番組やビデオを録画 / 再生する (PCV-R70/R60/R50のみ).....	61
他の機器とデータをやりとりする	62
「Smart Connect」を使って	62
データをやりとりする	62
PCカードでデータをやりとりする	63
音楽CD / ビデオCDを再生する	64
いろいろなソフトウェアを使う	65

拡張編

周辺機器を接続する	
i.LINK対応機器をつなぐ	68
i.LINKとは?	70
i.LINKでの接続について	71
必要なi.LINKケーブル	72
本機と操作できるi.LINK対応機器	73
AV機器をつなぐ (PCV-R70/R60/R50のみ)	74
アンテナをつなぐ	75
ビデオ機器をつなぐ	77
テレビにつなぐ	80
プリンターをつなぐ	81
USB機器を接続する	82
ジョイスティック / MIDI機器をつなぐ	83

本体を拡張する	
拡張ボードを増設する	84
拡張ボードの種類	84
プラグアンドプレイについて	84
リソースについて	85
拡張ボード取り付けの流れ	86
拡張ボードを取り付ける	87
PCカードを使う	91
PCカードとは	91
PCカードを取り付ける	92
メモリーを増設する	94
メモリーモジュールを取り付ける	94
ハードディスクドライブを増設する	101
ハードディスクドライブを取り付ける	101
その他のデバイスを増設する	105
デバイスを取り付ける	105
前面パネルのベイカバーを取りはずす	109

セットアップ編

BIOSセットアップメニューを使う	
BIOSセットアップメニューの概要	112
BIOSセットアップとは	112
BIOSセットアップメニューを起動する	112
BIOSセットアップメニューの構成	113
BIOSセットアップメニューでのキー操作	115
BIOSをお買い上げ時の設定に戻す	116

内蔵モデムを設定する	
ダイヤル方法を設定する	117
内蔵モデムの設定を確認する	118
ダイヤルの設定を確認する	119
Windowsの設定を変更する	
操作環境を自分の好みに合わせる ...	122
コントロールパネルとは	122
ディスプレイの設定を変更する	123
アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす	134
音質の設定を変更する	135
マウスの設定を変更する	137

その他

使用上のご注意	144
お手入れ	148
保証書とアフターサービス	150
主な仕様	152
リカバリ CDで本機を再セットアップする	155
パーティションサイズを変更する ...	158
キーボードショートカット	160
電話回線のコンセントの種類	161
動画系ソフトウェア入出力データ	
関連表	162
故障かな？と思ったら	165
索引	171



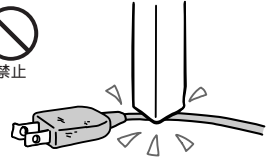
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより
死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

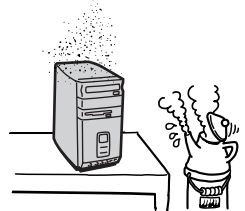
- 設置時に、製品と壁やラック(棚)などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご相談ください。

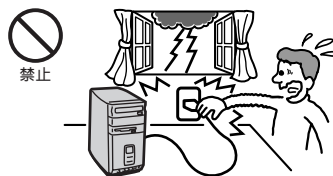


むやみに内部を開けない

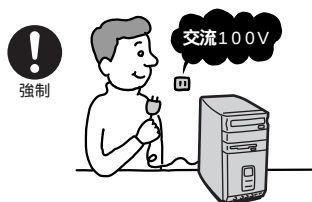
- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード(基板)を取り付けたりメモリーを増設する場合など、コンピューターの内部を開ける必要があるときは、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない
感電の原因になります。



本機は日本国内専用です
交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因とな
ることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない
本機の内蔵モデムをISDN(デジタル)対応公衆電話のデ
ジタル側のジャックや、構内交換機(PBX)へ接続すると、
モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因
となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回
線などには、絶対に接続しないでください。





下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。





下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

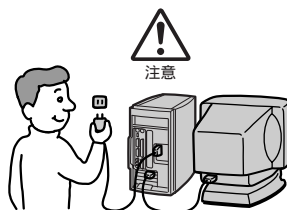
ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



安全アースを接続する

安全アースを接続しないと感電の原因となることがあります。安全アースを取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。



アース線を
接続せよ

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物(じゅうたんや布団など)の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。



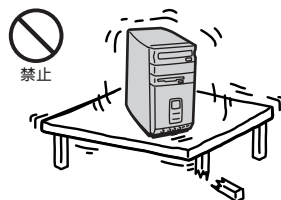


注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



運搬時は慎重に

コンピューターを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。



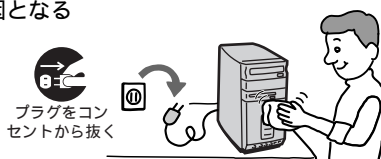
製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

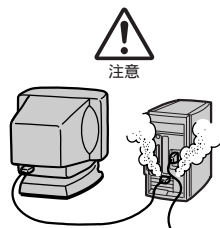
接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



注意

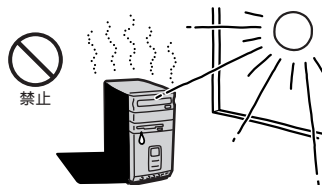
コネクターはきちんと接続する

- コネクター(接続端子)の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート(短絡)して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクターには必ずアースを接続してください。



直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



モデルの構成

この取扱説明書は、ソニーVAIOシリーズマイクロタワー型パーソナルコンピュータPCV-R70/R60/R50/R30について記載しています。

お買い上げいただいたモデルがどれかによって、以下の点が異なります。

PCV-R70/R60にはCD-RWドライブ、PCV-R50/R30にはCD-ROMドライブが搭載されています

各ドライブでは以下のようなことができます。

	CD-ROMを 再生する	CD-RWを 再生する	CD-RWに データを 書き込む	CD-Rを 再生する	CD-Rに データを 書き込む
PCV-R70/R60	○	○	○	○	○
PCV-R50/R30	○	○ ¹⁾	×	○ ²⁾	×

○：できる ×：できない

¹⁾「DirectCD」ソフトウェアでデータを書き込んだCD-RWは再生できません。

²⁾「DirectCD」ソフトウェアでデータを書き込んだCD-RをPCV-R50/R30のCD-ROMドライブで再生するには、CD-Rを取り出す際に、CD-ROMドライブでも再生できるように設定する必要があります。CD-Rを取り出す際に表示される画面の指示に従って操作してください。



本書で使われている「CD-ROM / CD-RWドライブ」という表記について
本書の説明の中で使われている「CD-ROM / CD-RWドライブ」とは、断りが
ない限り、PCV-R70/R60では「CD-ROM / CD-RWドライブ」を、PCV-R50/
R30では「CD-ROMドライブ」を指します。



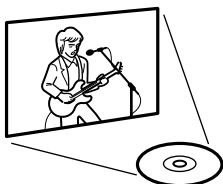
本書で使われている本機のイラストについて
本書の説明の中で使われているイラストは、断りがなく、PCV-R70のイラスト
です。



本書内の画面について
実際のもとは異なる場合があります。

こんなことができます

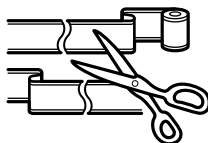
本機は、デジタルビデオカメラレコーダーやビデオデッキ、テレビなどと組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのパソコンです。ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。



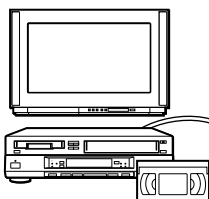
ビデオCDを見る



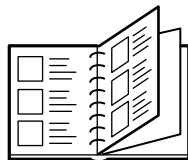
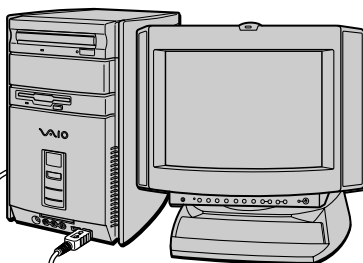
音楽CDを聞く



ビデオ編集をする



テレビ番組やビデオを
録画する (PCV-R70/R60/R50のみ)



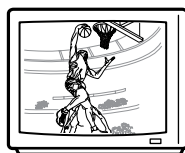
電子アルバムを作る



i.LINK対応機器から
動画や静止画を取り込む



インターネットを楽しむ



テレビを見る
(PCV-R70/R60/R50のみ)



i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。i.LINKについて詳しくは、70ページをご覧ください。

i.LINKを使って静止画や動画を取り込む

本機にi.LINK(IEEE1394)インターフェースを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぎ、付属の「DVgate still」ソフトウェアを使って、デジタル信号のままで静止画を取り込みます。また、「DVgate motion」ソフトウェアを使うと動画を取り込みます。

PCV-R70/R60では、テレビ番組やビデオから「DVgate motion」ソフトウェアを使って動画を取り込むこともできます。

さらに、「Smart Capture」ソフトウェアを使って電子メールに添付できる静止画や高圧縮の動画を取り込みます。

取り込んだ静止画を自由自在に活用する

別売りのソニーデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなどから取り込んだ静止画は、付属の「PictureGear」ソフトウェアで簡単に管理できます。また、付属の「Adobe PhotoDeluxe」ソフトウェアを使えば、画質調整や複数の画像の合成、特殊効果の演出など多彩な画像加工が楽しめます。

取り込んだ動画を編集する

付属の「DVgate motion」ソフトウェアを使えば、i.LINK対応機器から高画質で動画を取り込み、不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげたりすることができます。

PCV-R70では、付属の「Adobe Premiere」ソフトウェアを使って、映像と映像をつなぐオーバーラップ効果や色の調整、特殊効果、タイトルの挿入などさまざまなビデオ編集を楽しむことができます。(「Adobe Premiere」ソフトウェアは、PCV-R70にのみ付属しています。)

編集した動画は、CD-RWドライブを使ってビデオCDにすることができます。(ビデオCDの作成は、PCV-R70/R60のみ対応しています。)

VAIO間でファイルを共有する

付属の「Smart Connect」に対応したVAIOと本機をi.LINKケーブルで接続し、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンターを使って印刷することもできます。

テレビを見る(PCV-R70/R60/R50のみ)

本機にアンテナをつなぎ、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使うと、パソコンを使いながらテレビ番組を楽しむことができます。

テレビ番組やビデオを録画する (PCV-R70/R60/R50のみ)

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組や、ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどから映像を録画することができます。

PCV-R70/R60では、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から映像を録画することもできます。また、録画しながら録画中の映像を再生したり、別の録画済みの映像を再生できます。

録画した映像を管理する (PCV-R70/R60/R50のみ)

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、録画済みの映像を管理できます。付属のCyberCodeシールを使ってビデオテープに録画した映像も管理できます。



CyberCodeとは

CyberCodeは、ソニー独自の2次元バーコードで、約1,677万通り(24ビット)存在します。このうち、約100万通り(20ビット)のCyberCodeを登録することができます。残りのCyberCodeは、将来のサービス拡張用です。CyberCodeはそれが貼られたものから、対応するコンピューター上の情報を引き出すためのインデックスの役割をします。

映像の好きな区間だけを集めて連続再生する (PCV-R70/R60/R50のみ)

本機で録画した映像は、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、見たい区間だけ指定して、複数の箇所を連続して再生するリストを作ったり、再生したり、ビデオテープに録画したりできます。

AV再生を楽しむ

付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDを再生できます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りすることができます。

実用的なソフトウェアを使う

ワープロや表計算、家計簿などの市販のソフトウェアを使って、本機を実用的な用途に使えます。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の4章で構成されています。

□ 操作編

ここでは、本機の基本的な使いかたや一歩進んだ使いかたを説明しています。パソコンの操作に慣れていない方はここからお読みください。

□ 拡張編

ここでは、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器やプリンターなどの周辺機器のつなぎかた、また本機の拡張のしかたについて説明しています。

□ セットアップ編

ここでは、本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更する方法を説明しています。

□ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな?と思ったら」をお読みください。

本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
インターネットを利用したい	「インターネットを楽しむ」(55ページ)
i.LINK対応機器から静止画を取り込みたい	「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」(58ページ)
i.LINK対応機器から動画を取り込みたい	「i.LINK対応機器から動画を取り込む」(56ページ)
テレビ番組やビデオを録画 / 再生したい	「テレビ番組やビデオを録画 / 再生する」(61ページ)
動画の編集をしてみたい	「ビデオ編集をする (PCV-R70のみ)」(60ページ)
他のパソコンのデータの本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」(62ページ)
CDを聞きたい	「音楽CD / ビデオCDを再生する」(64ページ)

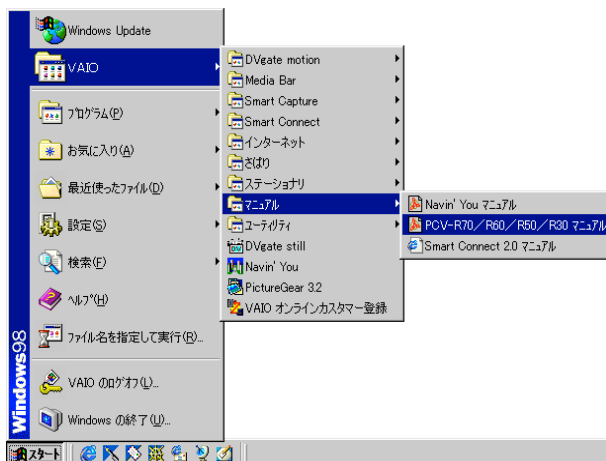
オンラインマニュアルの使いかた

この取扱説明書の内容やいくつかの付属ソフトウェアのヘルプは画面上で読みいただけます。

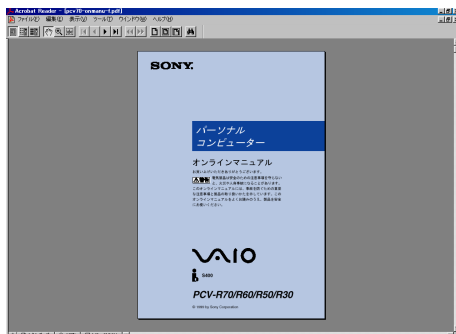
オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

[スタート] ボタンをクリックして [VAIO] にポインターを合わせ、[マニュアル] を選び、[PCV-R70 / R60 / R50 / R30 マニュアル] をクリックする。



オンラインマニュアルの表紙が表示されます。

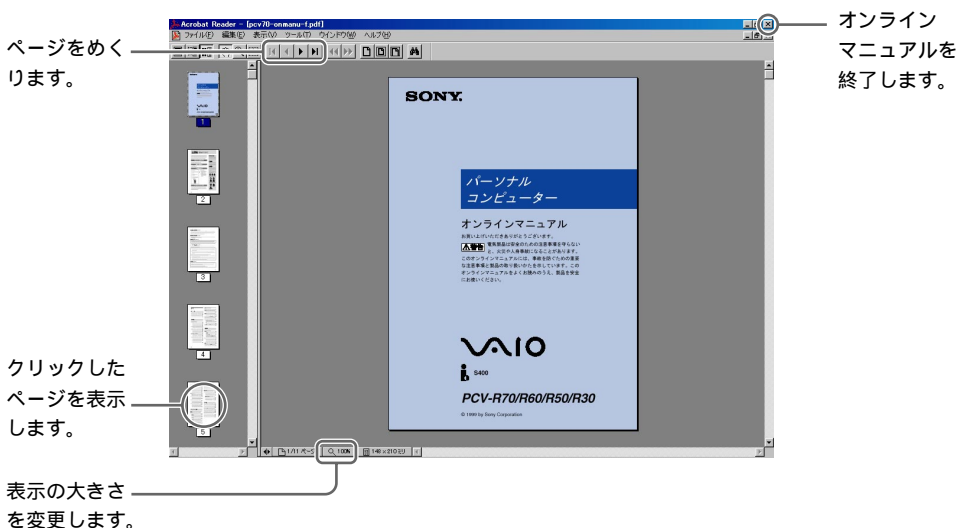


次のページにつづく

オンラインマニュアルの見かた

基本的なオンラインマニュアルの見かたを説明します。

サムネール(縮小表示)を見たいときは、をクリックします。



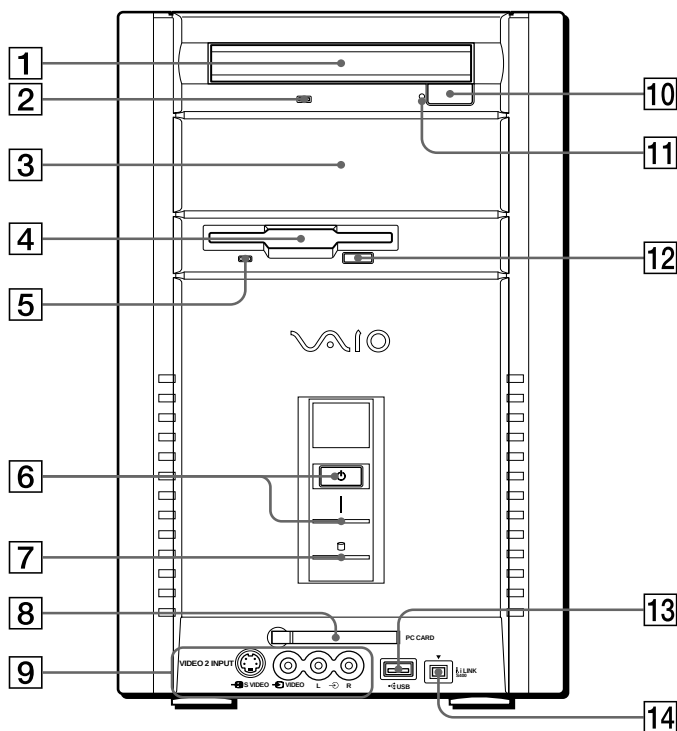
各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

各部の名称と働き

詳しい説明は、()内のページをご覧ください。

前面



1 CD-ROM / CD-RWドライブ
(47ページ)
CD-ROMのデータを読み込んだり、
CD-RW / CD-Rにデータを書き込ん
だりします。

2 CD-ROM / CD-RWドライブアク
セスランプ (48ページ)
CD-ROM、CD-RW、CD-Rにデー
タを読み込んだり、書き込んだりする
ときにオレンジ色に点灯します。

3 拡張デバイスベイ (105ページ)
DVD-ROMドライブやZIPドライブな
どのデバイスを増設できます。

4 フロッピーディスクドライブ
(51ページ)
3.5インチのフロッピーディスクに
データを読み込んだり、書き込んだり
します。

- ⑤ フロッピーディスクドライブアクセスランプ (52ページ)
フロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

- ⑥ ① (電源) ボタンと電源ランプ (25ページ)
本機の電源を入れるときに押します。電源が入っている間は、電源ランプが緑色に点灯します。
本機の動作中にこのボタンを押すと、システムスタンバイモードに入り、電源ランプがオレンジ色に点灯します。

- ⑦ ② ランプ (ハードディスクアクセスランプ)
ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときにオレンジ色に点灯します。

- ⑧ PC CARD (PCカード) スロット (63、91ページ)
メモリーカードなどのPCカードからデータを読み込むことができます。
ソニー製PCカードアダプターMSAC-PC1を取り付けると、“メモリースティック”を使って“メモリースティック”対応機器とデータのやりとりができます。

- ⑨ VIDEO 2 INPUT (映像入力2) コネクター (79ページ)
(PCV-R70/R60/R50のみ)
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。

⑩ S VIDEO (S映像入力)

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力コネクターとつなぎます。VIDEOコネクターから

入力された映像に比べ、よりきれいな映像を本機で見たり録画することができます。

⑪ VIDEO (映像入力)

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの映像出力コネクターとつなぎます。映像を本機で見たり録画するときに使います。

LINE ⑫ L/R (音声入力)

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力コネクターとつなぎます。

- ⑩ CD-ROMイジェクトボタン (47ページ)

CD-ROM / CD-RWドライブのトレイを引き出すときに押します。

- ⑪ マニュアルイジェクト穴 (49ページ)

CD-ROMイジェクトボタンを押してもCD-ROMを取り出せないときに使います。

- ⑫ フロッピーディスクイジェクトボタン (52ページ)

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

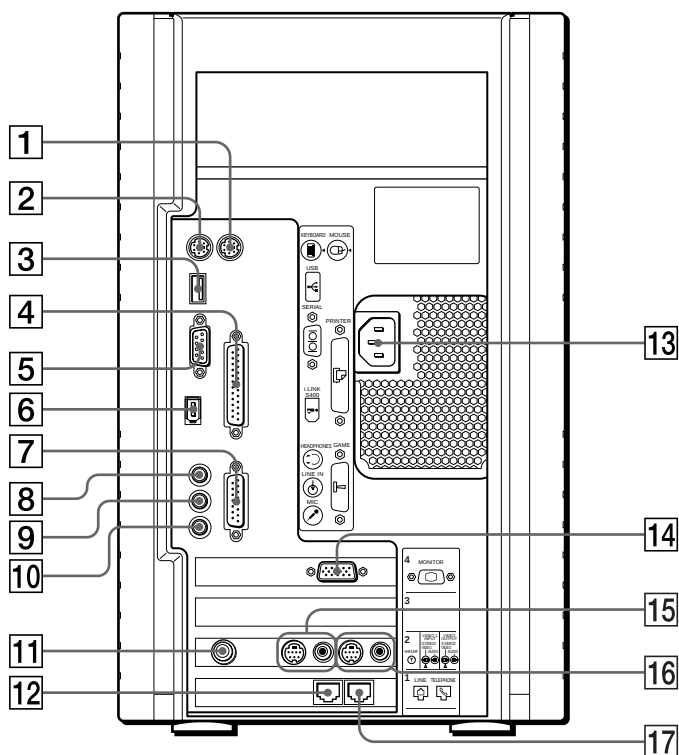
- ⑬ USBコネクター (82ページ)

USB規格に対応した機器をつなぎます。

- ⑭ i.LINK S400コネクター (4ピン) (69ページ)

i.LINK対応機器とつなぎます。

後面



- 1 MOUSE (マウス) コネクター
付属のマウスをつなぎます。
- 2 KEYBOARD (キーボード) コネクター
付属のキーボードをつなぎます。
- 3 USBコネクター (82ページ)
USB規格に対応した機器をつなぎます。
- 4 PRINTER (プリンター) コネクター (81ページ)
別売りのプリンターやスキャナーなどをつなぎます。
- 5 SERIAL (シリアル) コネクター
SERIALコネクターを持った機器をつなぎます。
- 6 i.LINK S400コネクター (6ピン) (69ページ)
i.LINK対応機器をつなぎます。
- 7 GAME (ゲーム) コネクター (83ページ)
ジョイスティックやMIDI機器をつなぎます。

- 8 HEADPHONES (ヘッドホン) コネクター
別売りのスピーカーやソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイCPD-17MSなどのヘッドホンコネクターとつながります。
- 9 LINE IN (ライン入力) コネクター
オーディオ機器とつながります。
- 10 MIC (マイクロホン) コネクター
別売りのマイクやソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイCPD-17MSなどのマイクロホンコネクターとつながります。
- 11 VHF / UHF (アンテナ) 端子 (75ページ) (PCV-R70/R60/R50のみ)
アンテナをつなぎます。
- 12 LINE (電話回線) ジャック
壁の電話回線とつながります。
- 13 AC INPUT (AC電源入力) プラグ
付属の電源コードをつなぎ、電源コンセントにつながります。
- 14 MONITOR (モニター) コネクター
ディスプレイをつなぎます。
- 15 VIDEO 1 INPUT (映像入力) コネクター (78ページ) (PCV-R70/R60/R50のみ)
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。
S VIDEO / VIDEO (S映像 / 映像入力):
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力コネクターとつながります。よりきれいな映像を本機で見たり録画することができます。

付属のビデオ接続用変換コネクターを使うことにより、映像入力コネクターとして使用することもできます。

AUDIO (音声入力):

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力コネクターとつながります。

16 VIDEO OUTPUT (映像出力)

コネクター (78、80ページ)

(PCV-R70/R60/R50のみ)

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。

S VIDEO / VIDEO (S映像 / 映像出力):

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像入力コネクターとつながります。本機で再生した動画を、よりきれいな画質で録画することができます。

付属のビデオ接続用変換コネクターを使うことにより、映像出力コネクターとして使用することもできます。

AUDIO (音声出力):

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声入力コネクターとつながります。

17 TELEPHONE (電話機) ジャック

電話機をつなぎます。

操作編

基本的な使いかた	24
VAIOを使いこなす	55

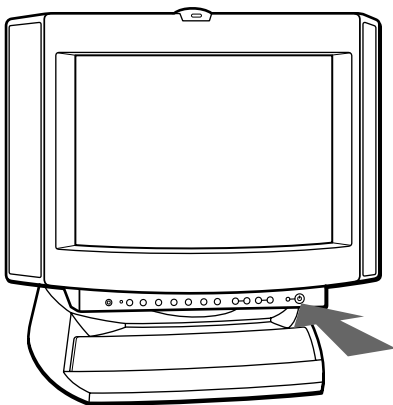
電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

- ディスプレイ、キーボード、マウスが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。(52ページ)

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。

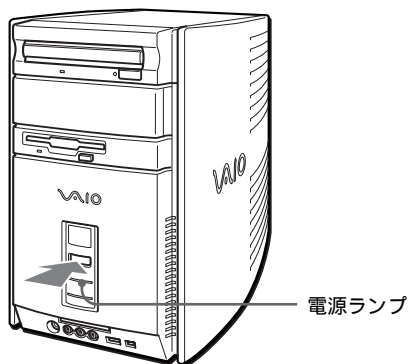
1 ディスプレイの電源スイッチを押す。



2 本機の (電源) ボタンを押す。

本機の電源が入り、電源ランプが緑色に点灯し、Windows 98が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 98のセットアップ画面が表示されます。Windows 98のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



電源を切る

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

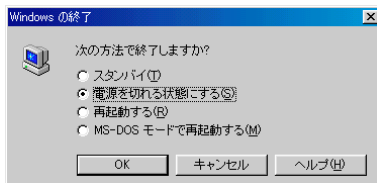
ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

- 1 タスクバーの[スタート]ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。



- 2 メニューの[Windowsの終了]をクリックする。
「Windowsの終了」が表示されます。



- 3 [電源を切れる状態にする]をクリックして選び、つぎに[OK]をクリックする。

しばらくすると本機の電源が自動的に切れます。

ご注意

本機の電源を切った後、10秒間は電源を入れないでください。

スタートメニューから [Windowsの終了] を選んでも電源が切れないときは

本機前面の (電源) ボタンを4秒間以上押したままにして、電源が切れたら離します。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。



しばらく作業を中断するときは

本機前面の (電源) ボタンを4秒未満押すと、一時的にシステム全体の動作を停止します(システムスタンバイモード)。このとき、本機前面の電源ランプはオレンジ色に点灯します。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。

通常の動作モードに戻すには、スペースキーを押すか、マウスのボタンをクリックします。

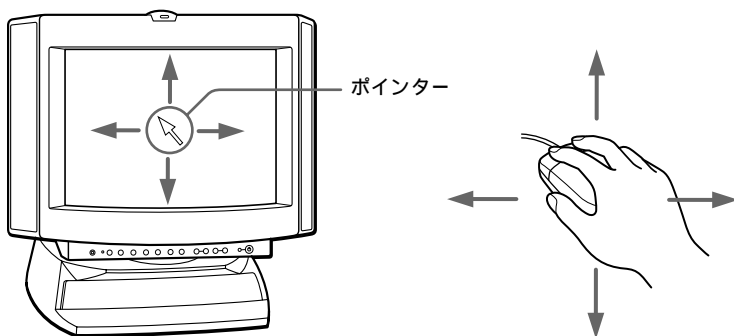
再起動する

本機の設定を変更したり、アプリケーションソフトをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。
- 2 メニューの [Windowsの終了] をクリックする。
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。
- 3 「再起動する」をクリックして選び、つぎに [OK] をクリックする。
本機が再起動します。

マウスを使う

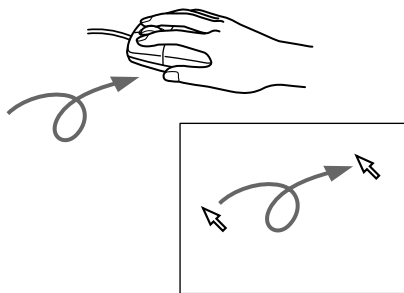
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左ボタン / 右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

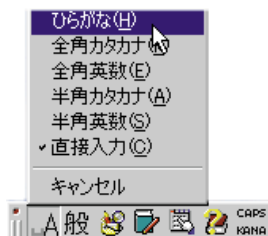
マウスを動かす

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かして机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



ポイントする

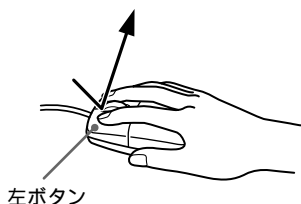
ポインターを希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。



クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

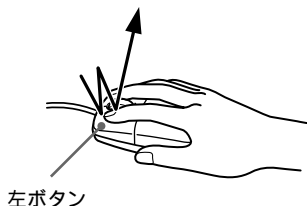
[OK]や[キャンセル]などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ダブルクリックする

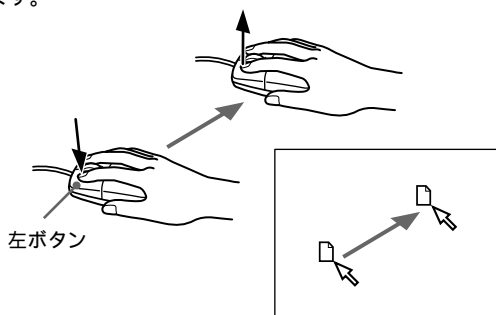
左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。



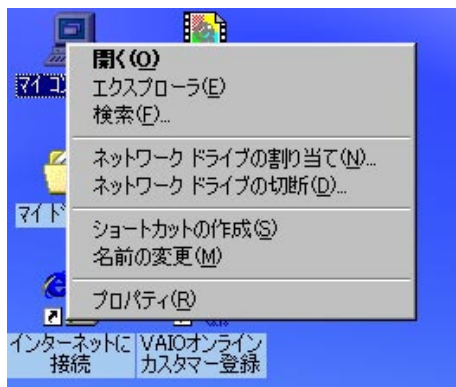
ドラッグする

左ボタンを押して、そのまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。



右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。



ホイールボタンの使いかた

ホイールボタンを使うことによって、スクロール、オートスクロール、ズームなどの操作ができます。

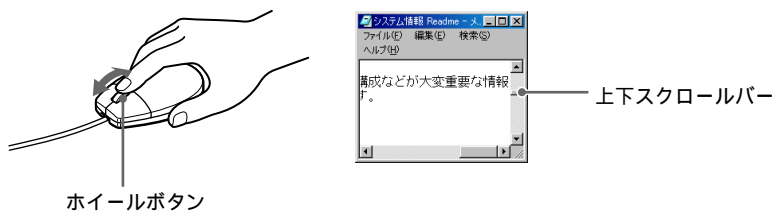
ご注意

お使いになるソフトウェアによっては動作が異なったり、機能しないものがあります。

スクロールする

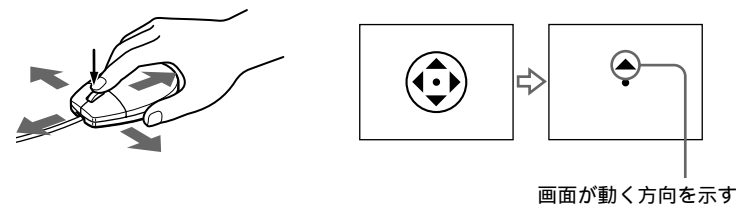
ウィンドウ上で上下スクロールバーが表示されているときに、ホイールボタンを転がして、画面を上下に動かすことです。

ウィンドウ右の上下スクロールバーをポイントし、ホイールボタンを転がして上下にスクロールすることもできます。



パンする

ホイールボタンを押しながらマウスを動かして、画面を上下左右に動かすことです。



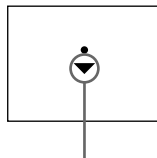
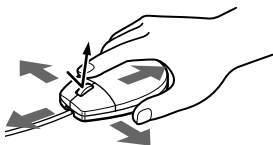
ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもパンすることができます。

オートスクロールする

ホイールボタンを押してすぐ離し、マウスを動かして自動的に画面を動かすことです。

カーソルを元に戻す場合は、ホイールボタンをもう1度押すか、左または右ボタンをクリックします。



画面が動く方向を示す



ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもオートスクロールすることができます。

ズーム / データズームする

ズームする

Ctrl(コントロール)キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ画面を拡大したり縮小することです。

データズームする

Shift(シフト)キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ上のデータを上または下の階層に切り換えることです。

ご注意

この機能はMicrosoft Office 97と互換性のあるプログラムでのみ働きます。

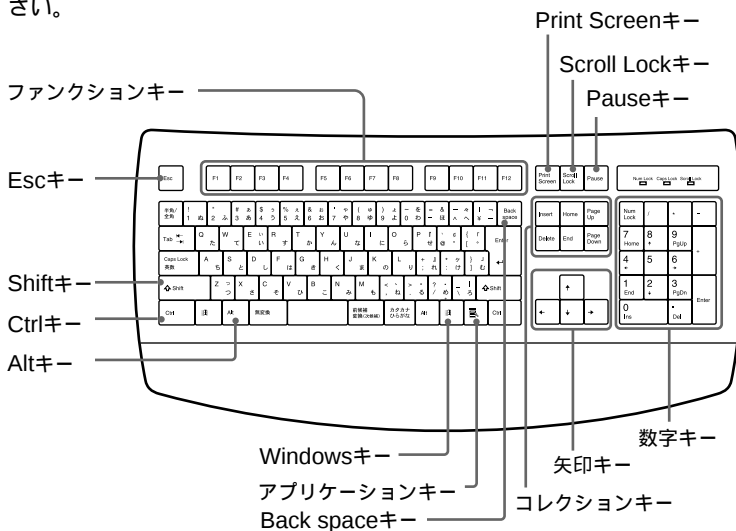
この他にも、ホイールボタンにクイックスクロールやオートスクロール以外の機能を割り当てることもできます。

詳しくは「マウスの設定を変更する」(137ページ)をご覧ください。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(36ページ)をご覧ください。



なまえ	機能
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Esc(エスケープ)キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
Shift(シフト)キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。Caps Lockランプがついている状態で、文字キーと同時に押した場合は、小文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。

なまえ	機能
Ctrl(コントロール)キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例) Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
Alt(オルト)キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。 使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Windows(ウィンドウズ)キー 	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよび「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」(160ページ)をご覧ください。
アプリケーションキー 	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。
Back space(バックスペース)キー	画面上のカーソルの左の文字を消すときに押します。

なまえ	機能
コレクションキー	Num Lockランプが消灯しているときは、数字キーの一部もコレクションキーとして使えます。
• Insert(インサート) キー	文字入力モードを切り換えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、画面上のカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするかが切り換わります。
• Delete(デリート) キー	画面のカーソル上の文字を消すときに押します。
• Home(ホーム) キー	行の先頭にカーソルを移動するときに押します。
• End(エンド) キー	行の最後にカーソルを移動するときに押します。
• Page Up (ページアップ) キー	現在表示している画面の前のページを表示します。
• Page Down (ページダウン) キー	現在表示している画面の次のページを表示します。
矢印キー	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。Num Lockランプが消灯しているときは、数字キーの一部も矢印キーとして使えます。
数字キー	Num Lock(ナム・ロック) キーを押し、Num Lockランプが点灯しているときは、数字を入力できます。消灯しているときは、矢印キーやコレクションキーと同じ働きをします。
Pause(ポーズ) キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Scroll Lock(スクロール・ロック) キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Print Screen(プリントスクリーン) キー	表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイントブラシ」などのソフトウェア上に貼りつけられます。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。キーボード上の各キーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」(33ページ)をご覧ください。

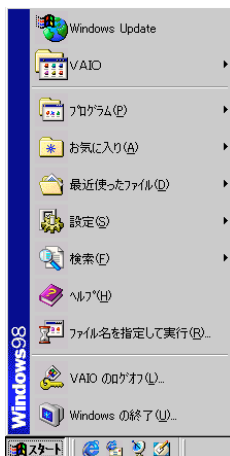
日本語入力を準備する

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

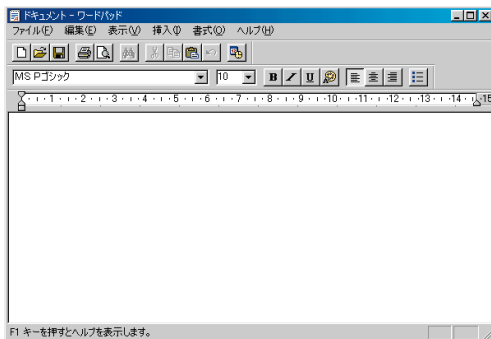
まず、ワードパッドを起動します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。
スタートメニューが表示されます。



- 2 [プログラム]にポインターを合わせ、[アクセサリ]から[ワードパッド]をクリックする。

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。



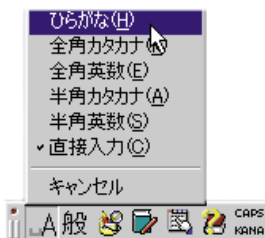
2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME98のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。



MS-IME98ツールバー

- 1 MS-IME98ツールバーの[A]をクリックする。
文字入力選択メニューが表示されます。



- 2 [ひらがな] をクリックする。

画面上に表示されているツールバーの表示が[A]から[あ]に変わり、日本語を入力できるようになります。



[A] から [あ] に変わる。

ツールバーが表示されていないときは

タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。

ツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

□ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

□ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

MS-IME98ツールバーの[KANA]をクリックするか、Ctrlキーを押しながら、Caps Lock / 英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力

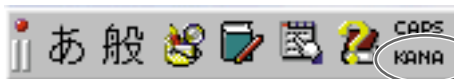


KANAの文字が
押された状態



[KANA]をクリックするか、Ctrlキーを押しながら、Caps Lock / 英数キーを押す。

ローマ字入力



KANAの文字が
押されていない状態

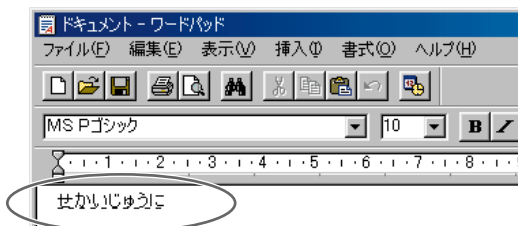
文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。

例として、「世界中にひろがったソニーVAIO」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

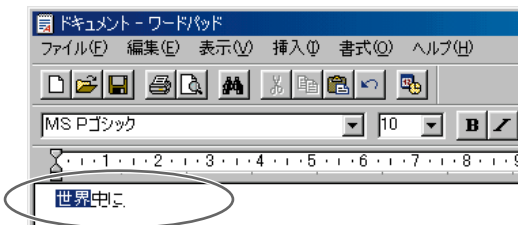
S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

かな入力の場合

せ、か、い、し、`（濁点） ゆ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します） う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

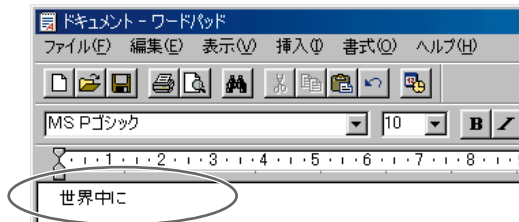
2 スペースキーを押す。



入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。

まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

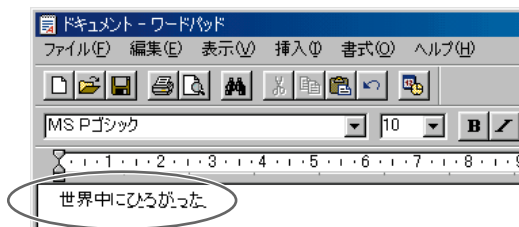
Backspaceキー：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Deleteキー：カーソルのある位置の1字を消します。

Escキー：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

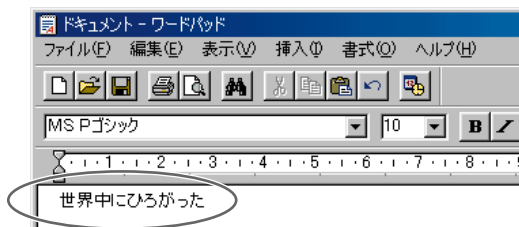
H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

かな入力の場合

ひ、ろ、か、`（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）
た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

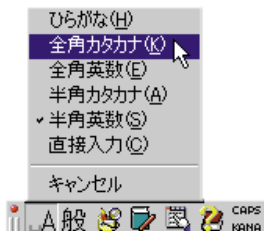
2 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

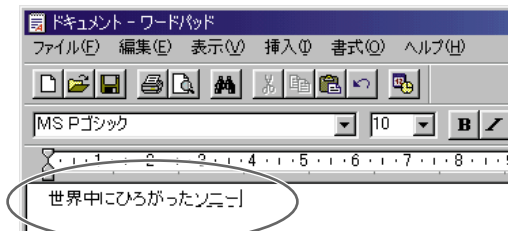
3 カタカナを入力する

- 1 MS-IME98のツールバーの[㍻]をクリックして、[全角カタカナ]を選ぶ。



ツールバーの表示が[カ]になり、カタカナが入力できる状態になります。

- 2 「ソニー」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

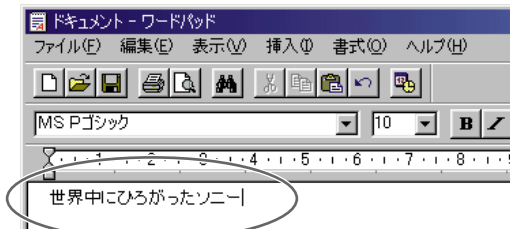
S、O、N、I、-(ハイフン)の順にキーを押します。

かな入力の場合

そ、に、—の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

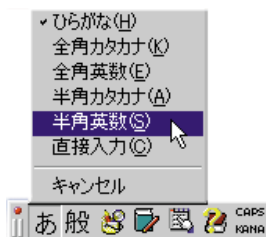
3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

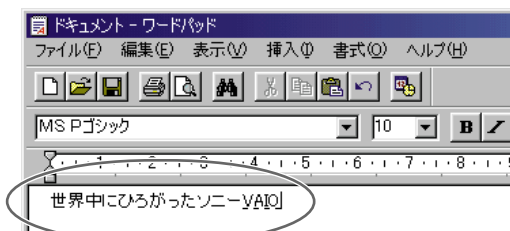
4 英字を入力する

- 1 MS-IME98のツールバーの[あ]をクリックして、[半角英数]を選ぶ。

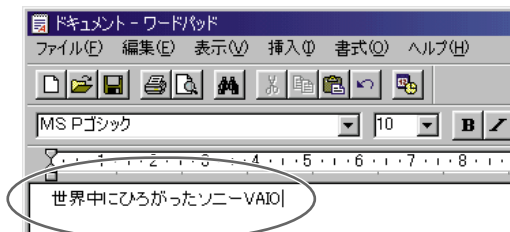


ツールバーの表示が[LA]になり、アルファベットが入力できる状態になります。

- 2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。



ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったソニーVAIO」と入力できました。
キーボード上にはない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたはMS-IME98のヘルプをご覧ください。



ちょっと一言

- 全角の「～」を入力するには、MS-IME98ツールバーで「ひらがな」を選んで（37ページ）ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまでスペースキーを押します。
- URLで使われる半角の「～」を入力するには、MS-IME98ツールバーで「半角英数」（43ページ）または「直接入力」を選び、Shiftキーを押しながら「^」を押します。

CD-ROM / CD-RWを使う

CD-ROMは、コンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読み取り専用の記録メディアです。大容量のデータを保存することができますが、読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。市販のプログラムやゲームなどで使われることが多いメディアです。

CD-RW (CD-Rewritable) は、CD-ROMと外見は似ていますが、コンピューターで扱うプログラムやデータを何度も書き込んだり消去したりすることができる記録メディアです。

CD-R (CD-Recordable) は、コンピューターで扱うプログラムやデータを一度だけ書き込むことができる記録メディアです。

CD-RW / CD-Rには、フロッピーディスクに入りきらない大容量のデータを保存することができます。

本機では付属の「DirectCD」ソフトウェアを利用することにより、ハードディスクと同じような感覚でCD-RW / CD-Rの読み書きができます。

ここでは、CD-ROM / CD-RW / CD-Rの使いかたについて説明します。

ご注意

- 機種によって用途が異なります。

	CD-ROMを 再生する	CD-RWを 再生する	CD-RWに データを 書き込む	CD-Rを 再生する	CD-Rに データを 書き込む
PCV-R70/R60	○	○	○	○	○
PCV-R50/R30	○	○ ¹⁾	×	○ ²⁾	×

○ : できる × : できない

¹⁾ 「DirectCD」ソフトウェアでデータを書き込んだCD-RWは再生できません。

²⁾ 「DirectCD」ソフトウェアでデータを書き込んだCD-RをPCV-R50/R30のCD-ROMドライブで再生するには、CD-Rを取り出す際に、CD-ROMドライブでも再生できるように設定する必要があります。CD-Rを取り出す際に表示される画面の指示に従って操作してください。

- 「DirectCD」ソフトウェアで音楽CDを作成したり、音楽CDや市販のCD-ROMなどをコピーすることはできません。

CD-RW / CD-Rの操作について

本機でCD-RW / CD-Rを操作するには「DirectCD」ソフトウェアを使います。操作について詳しくは「DirectCD」のオンラインマニュアルをご覧ください。「DirectCD」をお使いになるときは、以下の点にご注意ください。

フォーマットについて

未使用のCD-RW / CD-Rを使うには、あらかじめ「フォーマット」という作業が必要です。

ご注意

- 「DirectCD」を使うときは、未使用のCD-RW / CD-Rは、必ずフォーマットを行ってください。フォーマットを行わないと本機はそのCD-RW / CD-Rを認識することができないため、CD-RW / CD-Rを使うことができません。
- 付属の「DVgate motion」ソフトウェアのビデオCDクリエイターを使ってビデオCDを作るときは、フォーマットする必要はありません。

フォーマットにかかる時間およびフォーマット後の使用可能容量は以下の通りです。

	フォーマットにかかる時間	フォーマット後の使用可能容量
CD-RW	約50分	約530Mバイト
CD-R	約20秒	約620Mバイト

ディスクへの書き込み時のご注意

以下のような使用状況では本機に負荷がかかるため、CD-RW / CD-Rへの書き込みが失敗することがあります。

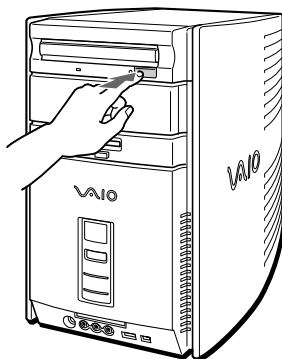
- 「DirectCD」以外のソフトウェアをディスクへの書き込み中に起動しているとき
 - ディスクへ書き込んでいる途中でスクリーンセーバーが起動するとき
- スクリーンセーバーの設定の変更については、「ディスプレイの設定を変更する」(124ページ)をご覧ください。

ディスクを入れる

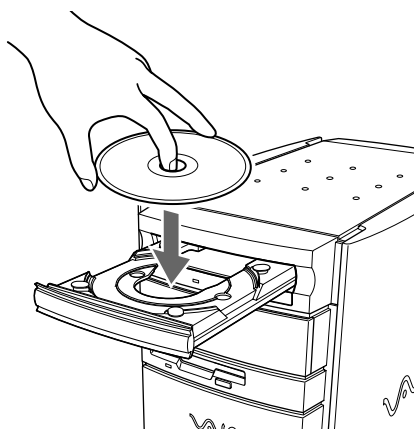
ここではCD-ROM / CD-RW / CD-RをCD-ROM / CD-RWドライブに入れる方法を説明します。

1 本機の電源が入っていることを確認する。

2 CD-ROMイジェクトボタンを押す。
トレイが自動的に引き出されます。



3 レーベル面(文字が書いてある面)を上にしてディスクをトレイの中央に置く。



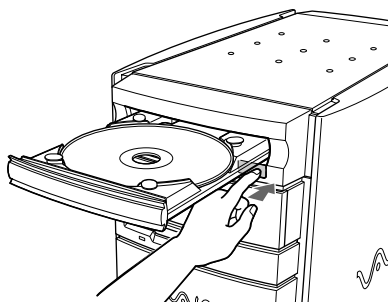
ご注意

- CD-ROMディスクの記録面(文字が印刷されていない面)には絶対に触れないようにご注意ください。
- CD-RW / CD-Rディスクを入れるときは、記録面には絶対に触れないようにしてください。記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。

次のページにつづく

4 CD-ROMイジェクトボタンを押す。

トレイが自動的に引き込まれます。

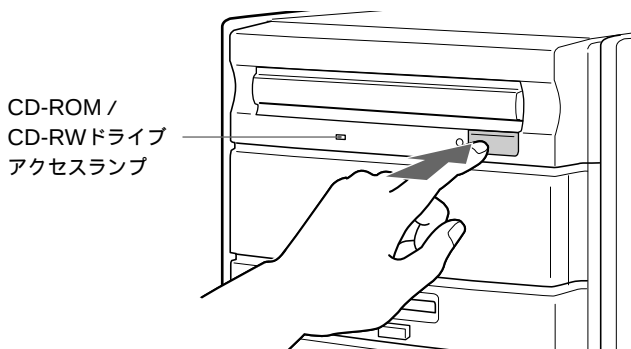


すでに書き込まれたCD-RW / CD-R、またはCD-ROMを入れたときは、データの内容が読み込まれます。データを読み始めると、CD-ROM / CD-RWドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

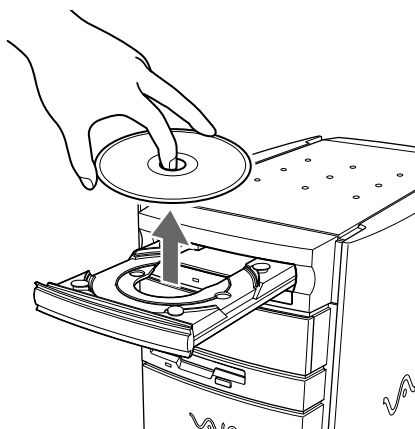
ディスクを取り出すには

- 1 CD-ROM / CD-RWドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯していないことを確認してから、CD-ROMイジェクトボタンを押す。

トレイが自動的に引き出されます。



2 ディスクを取り出す。



ご注意

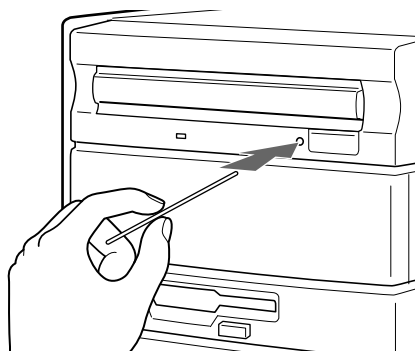
- CD-ROMイジェクトボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。
- CD-RW / CD-RはCD-ROMイジェクトボタンを押してもディスクがロックされている場合など、状態によってはトレイが引き出されることがあります。詳しくは、「DirectCD」のオンラインマニュアルをご覧ください。

ディスクが取り出せないときは

「ディスクを取り出すには」の操作を行ってもディスクが取り出せないときは、次の手順にしたがってください。

1 本機の電源を切る。

2 太い針金のようなもの(伸ばしたクリップでも代用可能)を、マニュアルイジェクト穴にまっすぐ押し込む。



ご注意

針金などを使ってディスクを取り出すときは、手や指にけがをしないように充分注意してください。

使用できるディスク

本機のCD-ROM / CD-RWドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク
CD-ROM	
音楽CD	
CD Extra	 
ビデオCD	 
CD-RW ¹⁾	
CD-R ²⁾	 
CD TEXT	 

¹⁾ PCV-R50/R30では、CD-RWにデータを書き込むことはできません。

「DirectCD」ソフトウェアでデータを書き込んだCD-RWは再生できません。

²⁾ PCV-R50/R30では、CD-Rにデータを書き込むことはできません。「DirectCD」ソフトウェアでデータを書き込んだCD-RをPCV-R50/R30のCD-ROMドライブで再生するには、CD-Rを取り出す際に、CD-ROMドライブでも再生できるように設定する必要があります。CD-Rを取り出す際に表示される画面の指示に従って操作してください。

ご注意

本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状(星型、ハート型など)をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。

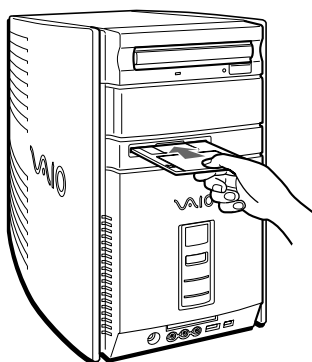
フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます。

ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



フロッピーディスクが完全にセットされるまで静かに押し込む。

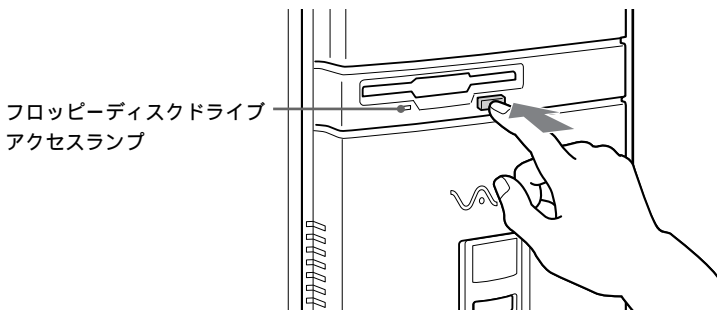
本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。初期化とは何かについては、「初期化について」(53ページ)をご覧ください。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する手間が省けます。その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」(53ページ)をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

□ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

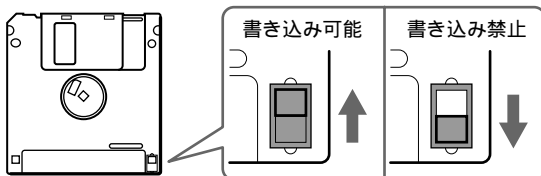
- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

□ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。次のような場合に書き込み禁止にしておきます。

- 内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないとき

フロッピーディスク裏面



初期化について

フロッピーディスクを使うには、「初期化」という作業が必要です。初期化とは、ちょうど真っ白なノートに罫線を引き、罫ごとに番号をふって、何ページのどこにどんなことを書き込んだか分かりやすくする作業に似ています。国によっていろいろな言語があるように、コンピュータの種類によって初期化の形式もさまざまです。お使いのコンピュータにあった初期化の形式でなければなりません。本機で初期化する方法については、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。すでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

ご注意

すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

使用できるフロッピーディスク

3.5型フロッピーディスクには、2HD(両面高密度)タイプと2DD(両面倍密度倍トラック)タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。

本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	Windows上では読み書きともに可。 MS-DOSプロンプトやMS-DOSモードでは読み書きとも不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のコロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンの フロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用で作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

インターネットを楽しむ

本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットを楽しむことができます。

ここでは、インターネットに接続するための大まかな流れを記します。

電話回線につなぐ

本機を電話回線につなぎます。

詳しくは「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。

インターネットサービスプロバイダーと契約する

詳しくは、「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する / インターネットに接続する」、および「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

インターネットに接続する

詳しくは、「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を本機に取り込みます。i.LINK対応機器から動画を取り込むには、付属の「DVgate motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使います。i.LINK対応機器から動画を取り込むには以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」(68ページ)をご覧ください。

「DVgate motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate motion」または「Smart Capture」を使って動画を取り込みます。
各ソフトウェアの使い方について詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。



ちょっと一言

- PCV-R70/R60をお使いの場合、「Giga Pocket」ソフトウェアの「アナログDVスイッチャー」を併用して、テレビ番組やビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を取り込むことができます。接続について詳しくは、「AV機器をつなぐ」(74ページ)をご覧ください。
- PCV-R70/R60をお使いの場合、取り込んだ動画は、「ビデオCDクリエーター」ソフトウェアを使ってビデオCDにすることができます。詳しくは、「DVgate motion」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- Windowsのディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがあります。取り込む動画に影響はありません。
ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」(123ページ)をご覧ください。
- 「DVgate motion」ソフトウェアを使うには、データベースとしてD:ドライブが必要です。本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つに分かれています(工場出荷時)。パーティションサイズを変更するには、「パーティションサイズを変更する」(158ページ)をご覧ください。

動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

動画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。

i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」(56ページ)をご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Smart Capture」を使って動画を電子メールで送ります。

「Smart Capture」ソフトウェアの使い方について詳しくは、「Smart Capture」の取扱説明書をご覧ください。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で録画した映像から、好みの場面を静止画として本機に取り込みます。i.LINK対応機器から静止画を取り込むには、付属の「DVgate still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使います。i.LINK対応機器から静止画を取り込むには以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」(68ページ)をご覧ください。

「DVgate still」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate still」または「Smart Capture」を使って静止画を取り込みます。

各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。



ちょっと一言

PCV-R70/R60をお使いの場合、「Giga Pocket」ソフトウェアの「アナログDVスイッチャー」を併用して、テレビ番組やビデオカメラレコーダー、ビデオデッキから静止画を取り込むことができます。接続について詳しくは、「AV機器をつなぐ」(74ページ)をご覧ください。

ご注意

Windowsのディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがあります。取り込む静止画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」(123ページ)をご覧ください。

静止画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」(58ページ)をご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Smart Capture」を使って静止画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使い方について詳しくは、「Smart Capture」の取扱説明書をご覧ください。

ビデオ編集をする(PCV-R70のみ)

i.LINK対応機器で録画した動画を本機に読み込んで編集することができます。編集した動画はi.LINK対応機器に録画することもできます。ビデオ編集するには、付属の「Adobe Premiere」ソフトウェアを使います。ビデオ編集するには以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」(68ページ)をご覧ください。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

「DVgate motion」ソフトウェアを使って、動画を取り込みます。詳しくは、「DVgate motion」の取扱説明書をご覧ください。

「Adobe Premiere」ソフトウェアを起動する

取り込んだ動画は、「Adobe Premiere」を使って編集します。「Adobe Premiere」の使いかたについて詳しくは、「Adobe Premiere」のオンラインマニュアルをご覧ください。



ちょっと一言

編集した動画は「ビデオCDクリエーター」ソフトウェアを使ってビデオCDにすることができます。詳しくは「DVgate motion」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

テレビ番組やビデオを録画 / 再生する (PCV-R70/R60/R50のみ)

テレビ番組やビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を録画するとき
テレビ番組、ビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を録画することができます。録画をしながら過去にさかのぼって再生したり、別の録画済みの動画を再生できます。
PCV-R70/R60をお使いのかたは、i.LINK対応機器からの録画もできます。
録画するには、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。録画するには以下の流れに沿って行います。

アンテナやビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーを本機に接続する

アンテナの接続について詳しくは、「アンテナをつなぐ」(75ページ)をご覧ください。

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの接続について詳しくは、「ビデオ機器をつなぐ」(77ページ)をご覧ください。

「Giga Pocket」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Giga Pocket」を使って録画します。

「Giga Pocket」の使いかたについて詳しくは、「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。

録画した動画を自由に再生するとき

録画した動画の指定した区間を連続して再生することができます。区間を指定して再生するには、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。「Giga Pocket」の使いかたについて詳しくは、「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機は、マクロビジョン社やその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョン社の許諾が必要であり、マクロビジョン社が特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。
- 「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってインターネットから取り込んだ予約データの間違いなどにより損害が生じた場合には、当社の保証対象外となりますのでご注意ください。

他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他の機器に送ったり、他の機器で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

ここでは、データ交換で使われている以下の方法について説明します。

- ・「Smart Connect」を使ってやりとりする
- ・PCカードを使ってやりとりする

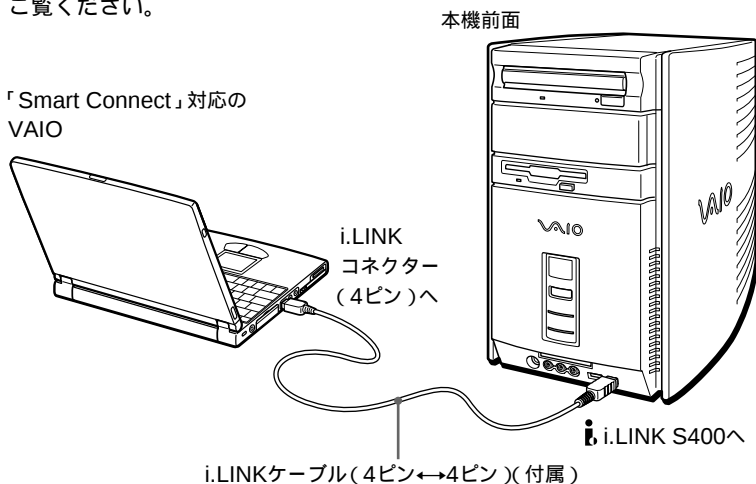
「Smart Connect」を使ってデータをやりとりする

「Smart Connect」に対応したVAIOと本機を、本機に付属しているi.LINKケーブル(4ピン↔4ピン)または別売りのi.LINKケーブルで接続し、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。

また、接続先のVAIOにつないだプリンターを使って印刷することもできます。

i.LINK接続については、「i.LINK対応機器をつなぐ」(68ページ)をご覧ください。

詳しくは、「Smart Connect」の取扱説明書およびオンラインマニュアルをご覧ください。



ご注意

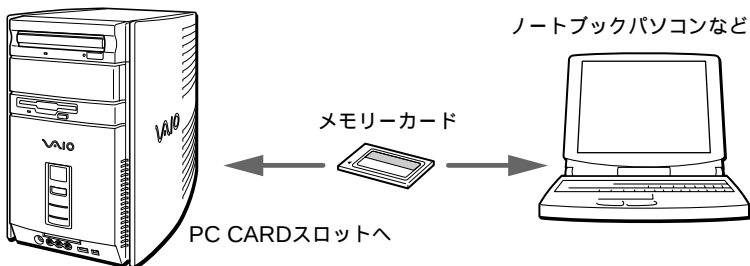
「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときに、「DVgate still」、「DVgate motion」、「Smart Capture」、「アナログDVスイッチャー」のいずれかのソフトウェアを起動すると、本機が正常に動作しなくなることがあります。「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときは、これらのソフトウェアは起動しないでください。

PCカードでデータをやりとりする

PCカードを使って、PCカードに対応した機器とデータをやりとりできます。PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」(91ページ)をご覧ください。

本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリーカードに保存して、データをやりとりできます。

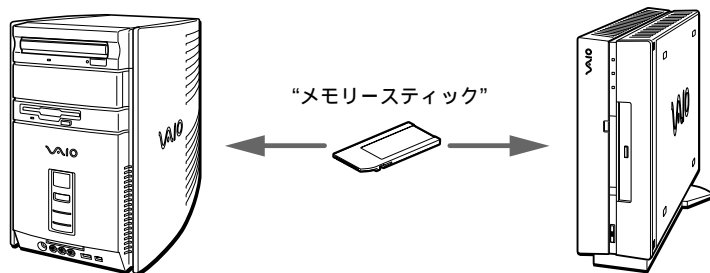
本機



ソニー製PCカードアダプターMSAC-PC1を本機のPCカードスロットに取り付けると、“メモリースティック”を使って“メモリースティック”対応機器とデータのやりとりができます。

本機

“メモリースティック”対応機器



PCカードアダプターの取り付けかたは、PCカードと同様です。
詳しくは、「PCカードを使う」(91ページ)をご覧ください。

音楽CD / ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。(一部ソフトウェアを除きます。)

再生するには付属の「Media Bar」ソフトウェアを使います。

「Media Bar」を使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Media Bar」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の[AV再生の設定]をダブルクリックする

「Media Bar」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示に従って操作する

再生する

設定が終了すると、「Media Bar」プレーヤー画面が表示されます。

「Media Bar」の使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。



ちょっと一言

一度「Media Bar」ソフトウェアの再生のための設定が終了すると、[AV再生の設定]アイコンは表示されず、2回目以降はすぐに再生を楽しむことができます。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。

ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

□ 画像データを管理する

「PictureGear」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像や映像データを表示し、まとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

□ 仮想世界を散歩する

「さばり(3Dマルチユーザーチャットワールド)」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「さばり」の「公園」や「コースト」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット(会話)も楽しめます。使いかたについて詳しくは、「さばり」のオンラインマニュアルをご覧ください。

□ 地図を見る

「Navin' You」ソフトウェアを使います。

市販されているナビ研規格(S規格/Ver.2.01/Ver.2.1)および株式会社アルプス社製「プロアトラス」シリーズに準拠している地図ディスクを見たり、ルート探索などが行えます。

お使いになる地図によっては機能の制限があります。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

拡張編

周辺機器を接続する	68
本体を拡張する	84

i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

ご注意

- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」(72ページ)および「本機と操作できるi.LINK対応機器」(73ページ)をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは一度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。ソフトウェアの制限により、同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate motion」や「DVgate still」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
「DVgate motion」または「Smart Capture」ソフトウェアと「Giga Pocket」ソフトウェアの「アナログDVスイッチャー」を併用して、アナログのビデオカメラレコーダーやビデオデッキから動画や静止画を取り込むときは、一緒にi.LINK対応機器をつないだままにせず、取りはずしてください。
- 本機は電源が切れている場合、i.LINKのデータを中継(リピート)しません。



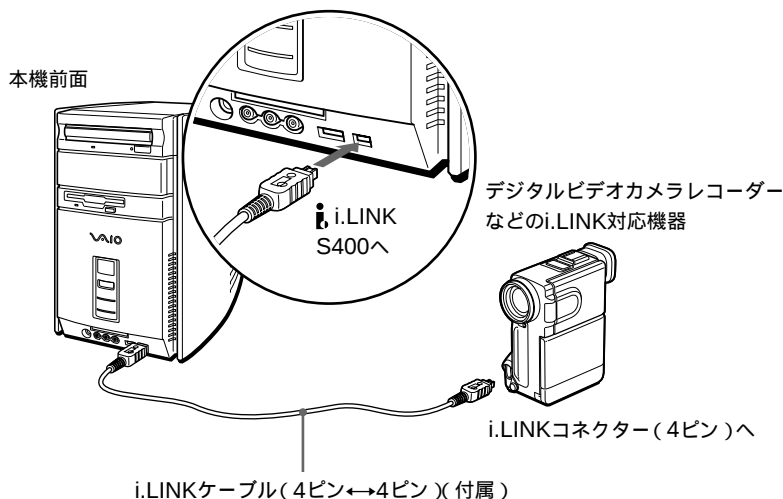
ちょっと一言

PCV-R70/R60には、i.LINK機器が2つ内蔵されています。このため、本機を含め62台までi.LINK対応機器を接続でき、いずれの経路も最大16台の機器を接続できます。(最大15ホップ)

「ホップ」については71ページをご覧ください。

前面パネルのコネクターを使うとき

- i.LINKケーブル(付属)を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。
- i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

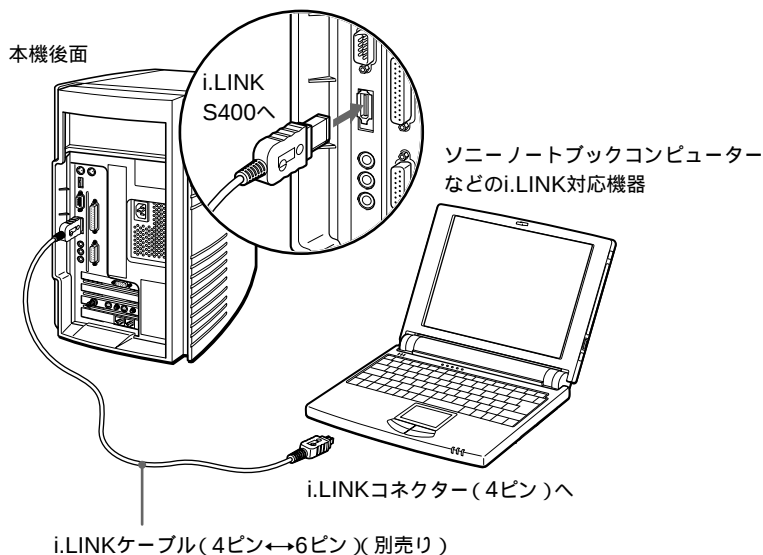


ご注意

接続の際は、付属のi.LINKケーブルをお使いください。

後面パネルのコネクターを使うとき

- i.LINKケーブル(別売り)を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。
- i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

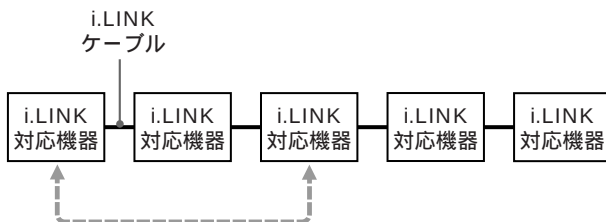


ちょっと一言

- i.LINK(アイリンク)はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
この技術は、DTLA(The Digital Transmission Licensing Administrator)というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像/音声/データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像/音声/データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デジー・チェーン」と呼びます。

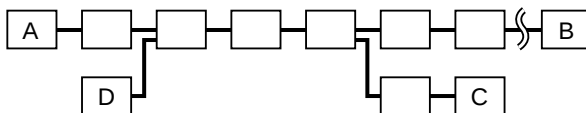


2つの機器の間に他の機器がつながれていても、
操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

- i.LINK端子を3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINK対応機器は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。)

ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

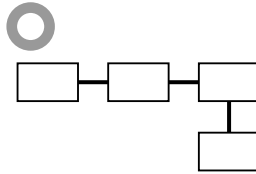
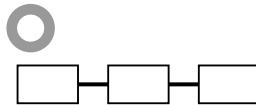
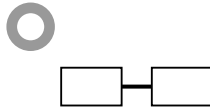


A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、
いずれの経路も最大17台の機器を接続できます
(最大16ホップ)。

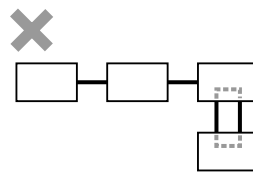
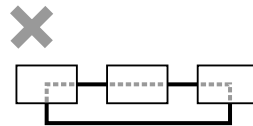
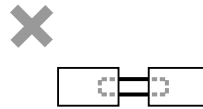
接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪(環状)になることを「ループ」と呼びます。

正しい接続例



ループの接続例



接続についてのご注意

- ・ パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- ・ i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100 / 200 / 400Mbpsが定義されており、それぞれS100、S200、S400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

必要なi.LINKケーブル

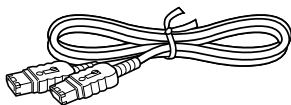
ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機に付属のi.LINKケーブル、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、次ページのソニー製i.LINKケーブル(別売り)をお使いください。

本機には4ピン↔4ピンのi.LINKケーブル(1.5 m)が付属しています。長い4ピン↔4ピンのi.LINKケーブルが必要な場合は、別売りのVMC-IL4435(3.5 m)をお使いください。

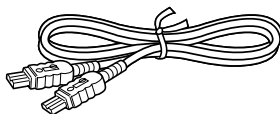
6ピン↔6ピン

- VMC-IL6615 (1.5 m)
- VMC-IL6635 (3.5 m)



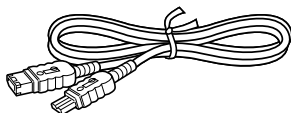
4ピン↔4ピン

- VMC-IL4415 (1.5 m)
- VMC-IL4435 (3.5 m)



4ピン↔6ピン

- VMC-IL4615 (1.5 m)
- VMC-IL4635 (3.5 m)



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機と操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。

(1999年5月10日現在)

- i.LINKコネクターを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクターを持つソニーノートブックコンピューター*

* 別売りのドッキングステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。

取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピューターの取扱説明書をご覧ください。

- ソニーが1999年4月末日までに発売したDV端子付きの家庭用DV機器(メディアコンバーターを含む)

ご注意

本機はDTLAコピープロテクション技術(70ページ)に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピープロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することはできません。

AV機器をつなぐ(PCV-R70/R60/R50のみ)

本機にはいろいろなAV機器をつなぐことができます。ここでは用途別に接続例を紹介します。

こんなことがしたい	詳しくは
• ディスプレイでテレビ番組を見たい • テレビ番組を本機のハードディスクに録画したい	本機とアンテナ端子をつなぎます。アンテナ端子に直接本機をつなぐ場合と、すでにAV機器がアンテナ端子につながっている場合とで接続のしかたが異なります。 接続のしかたについては「アンテナをつなぐ」(75ページ)をご覧ください。
• ビデオデッキの動画を本機につないだディスプレイで見たい • ビデオデッキの動画を本機のハードディスクに録画したい	本機とビデオデッキをつなぎます。 接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ」(77ページ)をご覧ください。
• ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機につないだディスプレイで見たい • ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機のハードディスクに録画したい	本機とビデオカメラレコーダーを接続します。 接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ」(77ページ)をご覧ください。
ディスプレイに映る動画をテレビで見たい	本機とテレビを接続します。 接続のしかたについては「テレビにつなぐ」(80ページ)をご覧ください。

アンテナをつなぐ

本機はTVチューナーが内蔵されているので、アンテナを本機につないで、ディスプレイでテレビ番組を見ることができます。アンテナ接続ケーブル（付属）を使って本機につなぎます。

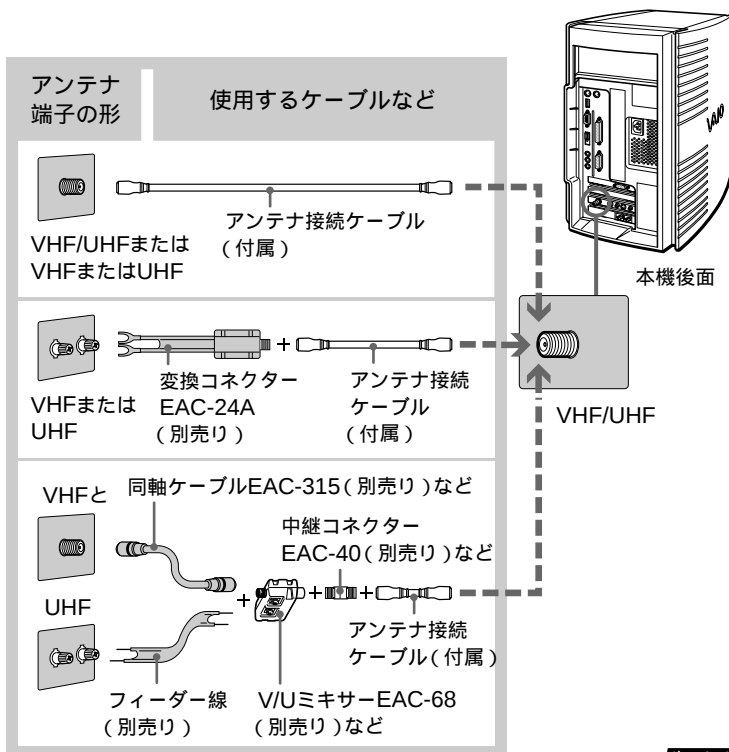
本機を直接壁のアンテナ端子につなぐ場合と、すでに他のAV機器がアンテナ端子につながっている場合とでは接続のしかたが異なります。

ご注意

- 本機およびディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

本機を直接壁のアンテナ端子につなぐ場合

アンテナのつなぎかたは、部屋のアンテナ端子の形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。



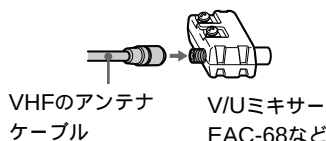
次のページにつづく

ご注意

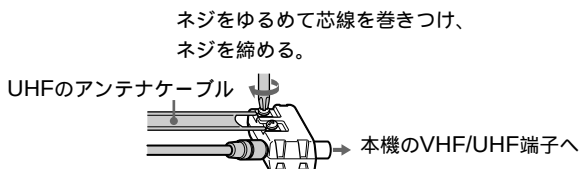
- フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。
- フィーダー線をご使用になる場合は本機からできるだけ離してください。
- フィーダー線をご使用になる場合は、長くなりすぎないようにご注意ください。

V/Uミキサーをつなぐには

1 VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサーにつなぐ。

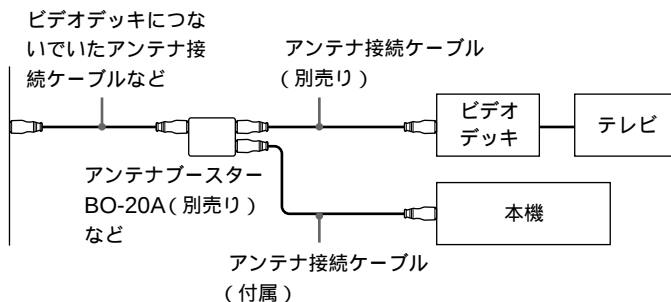


2 UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサーにつなぐ。



すでにAV機器が壁のアンテナ端子につながっている場合

アンテナブースター(別売り)を使って接続します。アンテナ端子とアンテナブースターのつなぎかたは、部屋のアンテナ端子の形や使用しているケーブルにより異なります。75ページの例から最も近いものを選び接続してください。



テレビを見たり、録画するには

「テレビ番組やビデオを録画/再生する」(61ページ)をご覧ください。

ビデオ機器をつなぐ

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーを本機につないで、ディスプレイでビデオデッキの動画を見たり、録画することができます。また、再生した動画をビデオデッキで録画することもできます。

Sビデオ接続ケーブル(別売り)とオーディオ接続ケーブル(付属)を使って、本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーをつなぎます。本機には前面および後面パネルにそれぞれ映像 / 音声入力コネクタとS映像入力コネクタがあり、どちらの入力コネクタを使うこともできます。

ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

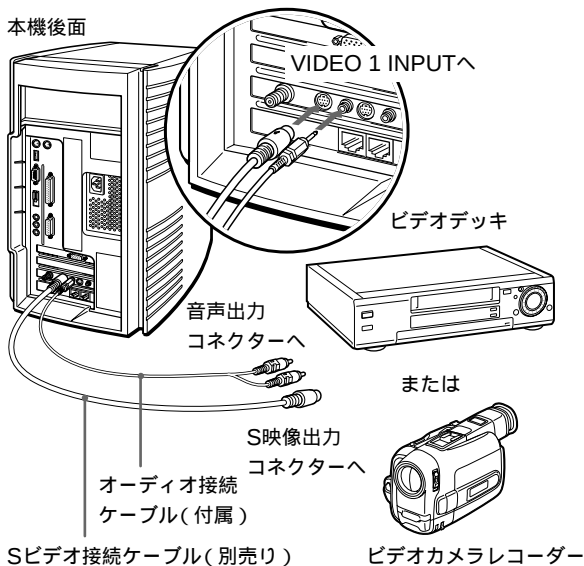
- 本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 前面パネルの音声入力コネクタを使うときは、別売りのオーディオ接続ケーブルが必要です。

ビデオデッキの映像を見たり録画するには

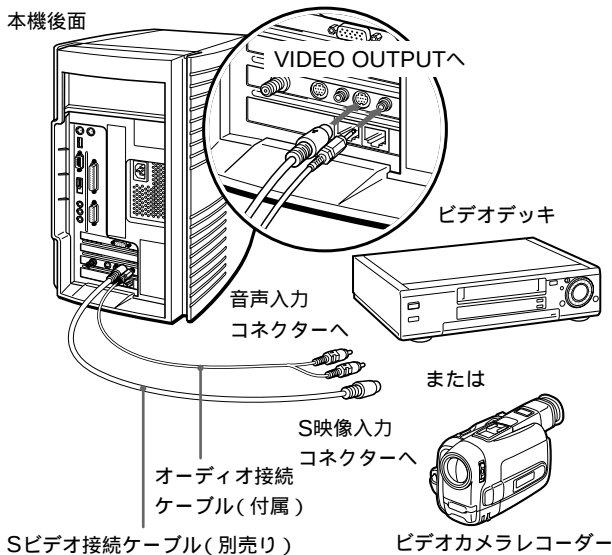
付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。ビデオデッキの映像を「Giga Pocket」ソフトウェアで扱う方法については、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

後面パネルのコネクターを使うとき

- ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの動画を見たり取り込むとき



- 本機で録画した動画をビデオデッキやビデオカメラレコーダーに録画するとき



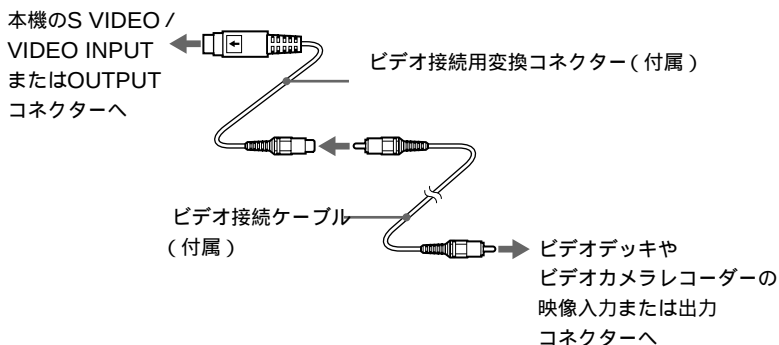
ご注意

本機のVIDEO 1 INPUTコネクターとVIDEO OUTPUTコネクターに同時にビデオデッキやビデオカメラレコーダーを接続して使用すると、雑音が出たり、映像が乱れることがあります。

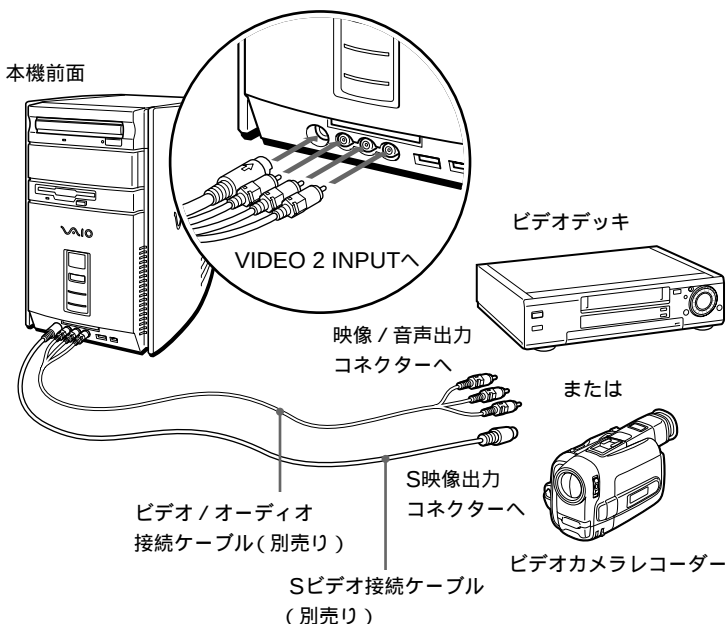


S映像入力 / 出力コネクタのないビデオデッキやビデオカメラレコーダーをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ(付属)とビデオ接続ケーブル(付属)をつないで使うことができます。



前面パネルのコネクタを使うとき



ご注意

本機のS映像入力コネクタを使うときは、映像入力コネクタに接続ケーブルをつなぐ必要はありません。S映像入力コネクタに接続ケーブルをつなぐと、S映像入力が優先されます。

テレビにつなぐ

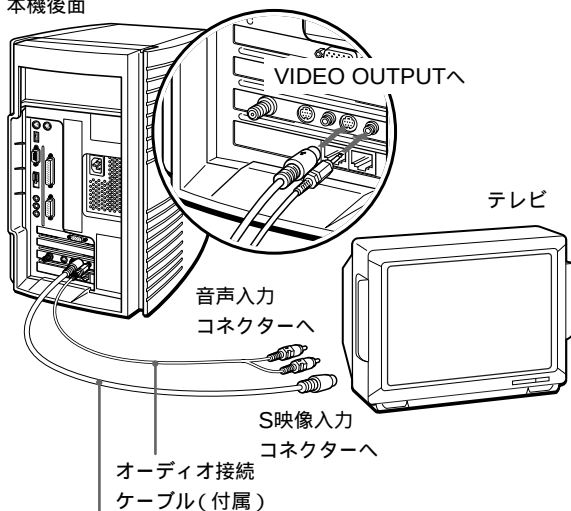
「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像をテレビでも表示することができます。

Sビデオ接続ケーブル(別売り)とオーディオ接続ケーブル(付属)を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

本機後面



Sビデオ接続ケーブル
(別売り)

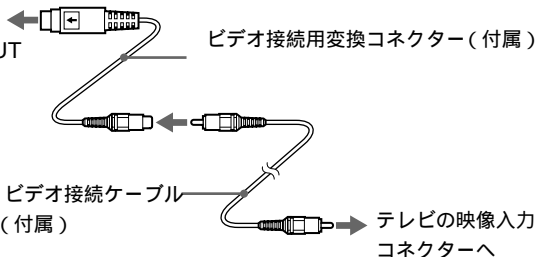


S映像入力コネクターのないテレビをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクター(付属)とビデオ接続ケーブル(付属)をつないで使うことができます。

本機の

S VIDEO /
VIDEO OUTPUT
コネクターへ



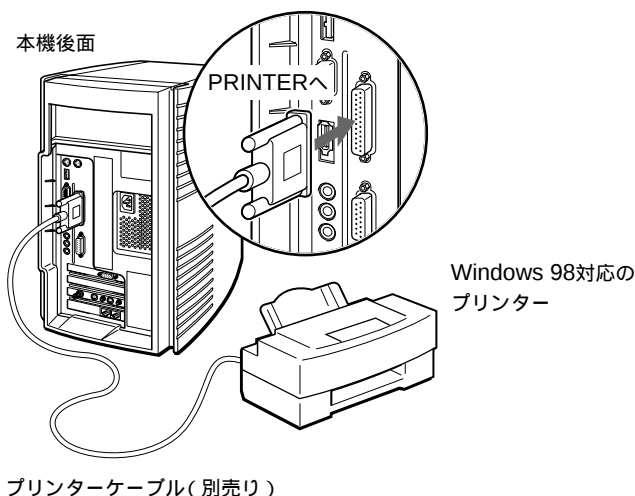
プリンターをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。

プリンターケーブル(別売り)を使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、プリンターに付属のドライバーを本機にインストールする必要があります。

詳しくはプリンターおよび付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

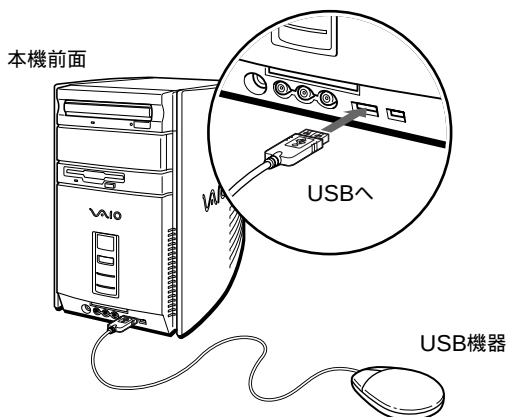
 ドライバーとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをパソコン側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンターのドライバーを本機にインストールすることにより、本機からプリンターの動作をコントロールできるようになります。

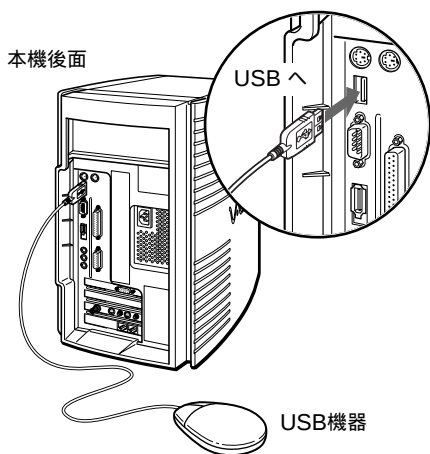
USB機器を接続する

本機の前面と後面にあるUSBコネクタを使って、USB機器を接続することができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

前面パネルのコネクタを使うとき



後面パネルのコネクタを使うとき



ジョイスティック / MIDI機器をつなぐ

ジョイスティックをつないでゲームをよりリアルに楽しんだり、MIDI (Musical Instrument Digital Interface) に対応した電子楽器をつないで音楽を楽しめます。

ご注意

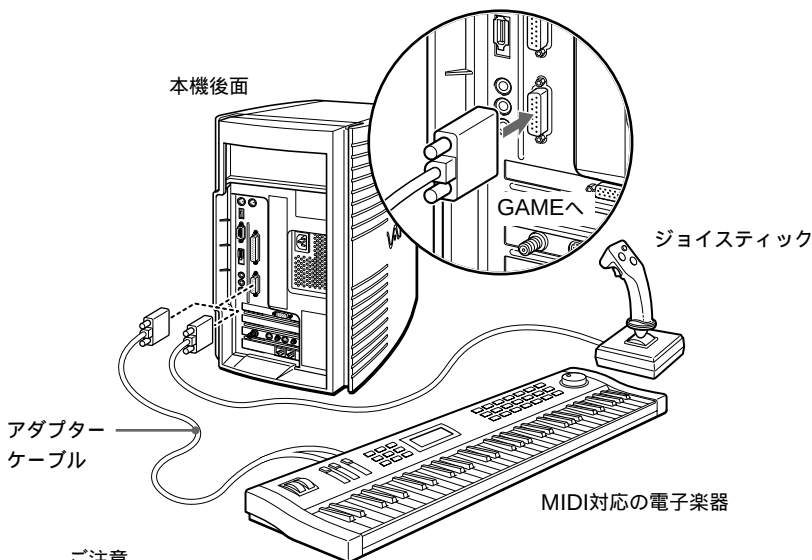
- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

ジョイスティックとは

ゲームなどでよく使われる操作用の機器です。方向をコントロールする柄の部分と、操作をコントロールするボタンから成っています。ジョイスティックを使うと、ゲームをよりリアルに楽しむことができます。ジョイスティックをつなぐときは、ジョイスティックの取扱説明書もあわせてご覧ください。

MIDI機器とは

MIDIとは、電子楽器間で情報をやりとりするために決められた通信規格のことです。MIDIに対応した電子機器をつなぐことで、本機からMIDI機器をコントロールして、自動演奏を楽しむことができます。MIDI機器をつなぐときは、電子楽器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



ご注意

MIDIに対応していない電子楽器はつなげません。

拡張ボードを増設する

本機では拡張ボードと呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCI」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 98とPCI規格に対応していることをご確認ください。

本機では空きスロット(拡張ボードを増設できる場所)が1か所あり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの長さは、約250mmまでです。



増設できるSCSIボード、LANボードについて

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

VAIOカスタマーリンクのホームページ(<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>)では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードは、ボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号(IRQ)、メモリー、I/Oポートなどの「リソース」(資源)を使用します。

PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」ウィンドウで現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

- 1 [マイコンピュータ]を右クリックする。
ショートカットメニューが表示されます。
- 2 [プロパティ]をクリックする。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 [デバイスマネージャ]タブをクリックする。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 4 [コンピュータ]をダブルクリックする。
「コンピュータのプロパティ」ウィンドウに現在使用中のリソースが表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

電源の切りかたについて詳しくは「電源を切る」(26ページ)をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」(87ページ)をご覧ください。

電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」(24ページ)をご覧ください。

ドライバーの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されると、メッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。



ドライバーとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをパソコン側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバーのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

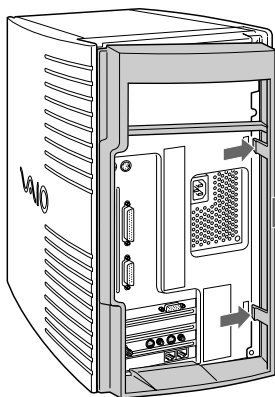
取り付けるときの注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が壊れることがあります。

- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクター部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。

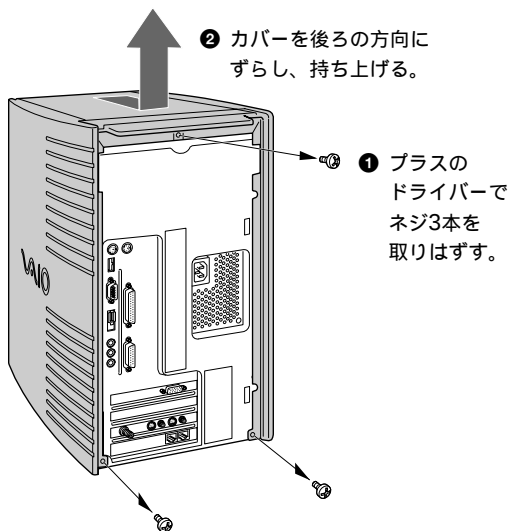
2 後面のパネルを取りはずす。



ツメを矢印の方向に
押しながら、後面の
パネルを手前に引く。

本体を
拡張する

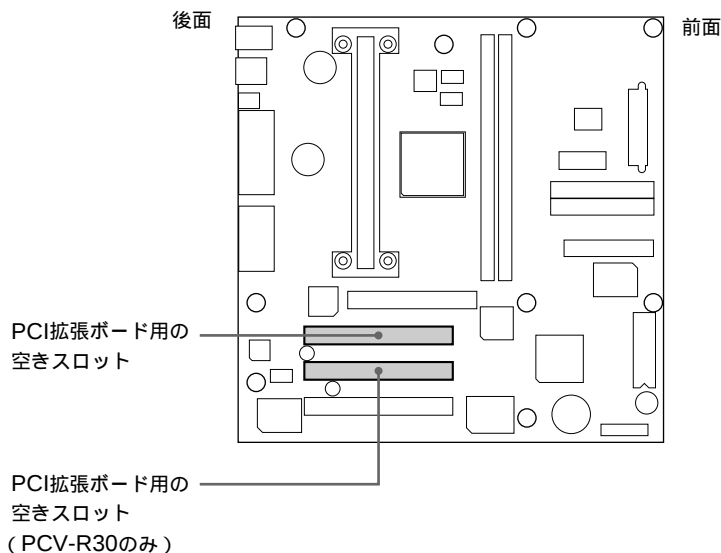
- 3** しばらくしてから、本機後面のネジをはずし、カバーを取りはずす。
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性
があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。



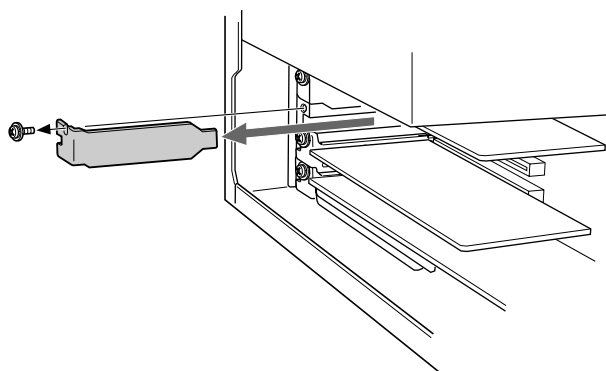
ご注意

取りはずした3本のネジはカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

本機の内部基板は下の図のようになっています。



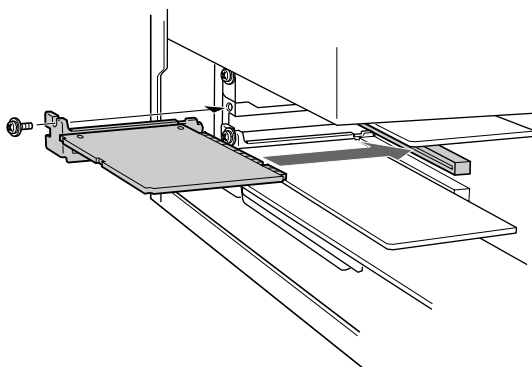
- 4** 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。
スロットのカバーを取り付けているネジをはずし、本体の内部からカバーを取りはずします。



ご注意

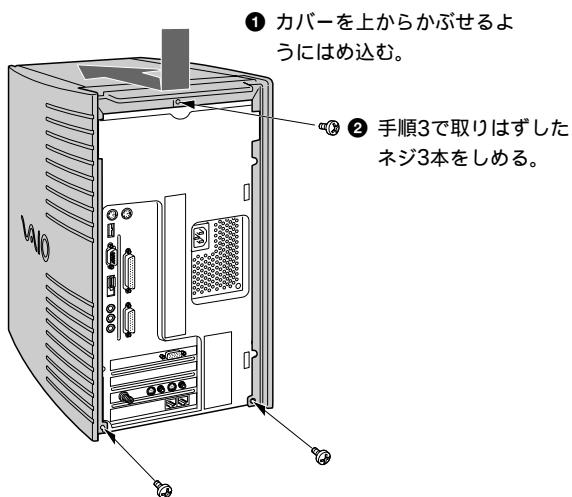
内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。

- 5** 拡張ボードを取り付ける。
拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。
詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



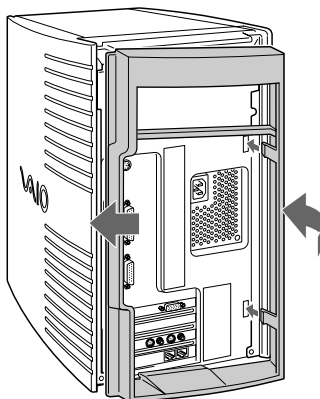
6 カバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、ネジをしめます。



7 後面のパネルを取り付ける。

先に左側面のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



- 8 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。
Windows 98が起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

PCカードを使う

本機には、PC CardタイプIとタイプIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また、本機のPC CARD(PCカード)スロットは16ビットCardおよびCard Busに対応しています。(ZV(Zoomed Video)Portには対応していません。)

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。

PCカードには以下のような種類があります。

メモリーカード

データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込みます。

SCSIカード

MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

TA(ターミナルアダプター)カード

ISDN回線に接続できます。

ちょっと一言

ソニー製の“メモリースティック”対応PCカードアダプターMSAC-PC1を取り付ければ、“メモリースティック”を使って、“メモリースティック”対応機器とデータをやりとりできます。

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、ドライバーソフトを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバーソフトを入手してお使いください。

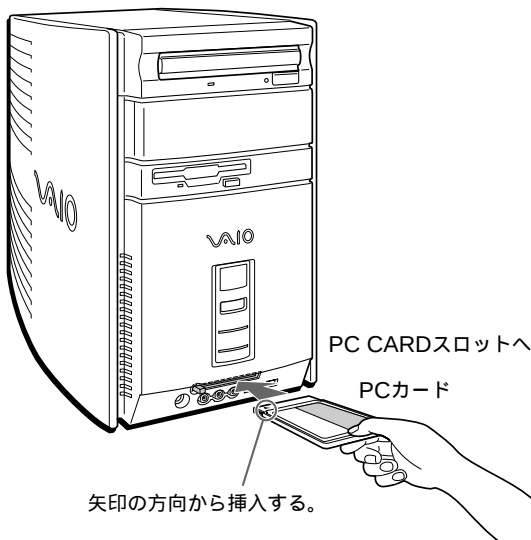
PCカードを取り付ける

PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

カードをPC CARD (PCカード) スロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。

カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

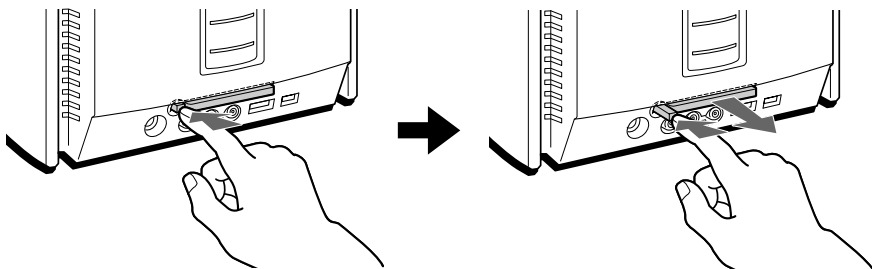
- PCカードによっては、PC CARDスロットに挿入したまま本機の電源を入れると、正しく動作しないことがあります。この場合は、PCカードの使用を中止し、いったん取り出してから、もう一度入れ直してください。PCカードの取り出しかたについて詳しくは、「PCカードを取り出すには」(93ページ)をご覧ください。
- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバーをお使いください。
- 「システムのプロパティ」の[デバイスマネージャ]タブでPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバーを削除し、再度インストールしてください。

PCカードを取り出すには

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [PCカード]をダブルクリックする。
- 3 リストから取り出したいPCカードをクリックし、次に[終了]をクリックする。
- 4 「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら[OK]をクリックする。
- 5 PC CARD (PCカード) スロットのイジェクトボタンを押す。
一度イジェクトボタンを押してボタンを手前に引き出し、出たボタンをもう一度押すとPCカードを取り出すことができます。



カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

メモリーを増設する

本機の内部の拡張メモリースロットにメモリーを増設することができます。
メモリーを増設すると、データの処理速度や複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリー増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリーの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。
- メモリーの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電氣的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- メモリー増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはざないように注意してください。

メモリーモジュールを取り付ける

別売りのメモリーモジュールを取り付けることにより、メモリーを増設します。
本機専用のメモリーモジュールとして、PCVA-MM64P/MM128P(別売り)があります。

本機にはメモリーモジュールを取り付けるスロットが2つあり、標準では64Mバイトのメモリーモジュールが1枚装着されています。PCVA-MM64P(別売り)を1枚取り付けることにより、128Mバイトまでメモリーを増設できます。また、PCVA-MM128P(別売り)を2枚取り付けることにより、最大256Mバイトまでメモリーを増設できます。

取り付けの際には、メモリーモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

メモリーモジュールを選ぶときのご注意

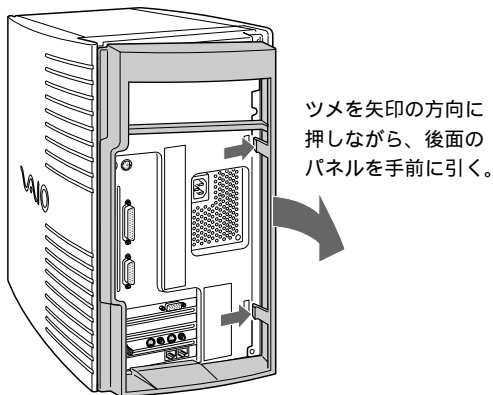
- メモリーモジュールには、さまざまな種類のものが存在します。市販のメモリーモジュールを取り付ける際には、その製品が本機での動作保証を明記していることをご確認ください。
- 市販のメモリーモジュールについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はメモリーモジュールの販売元にご相談ください。

メモリーモジュール取り扱い上のご注意

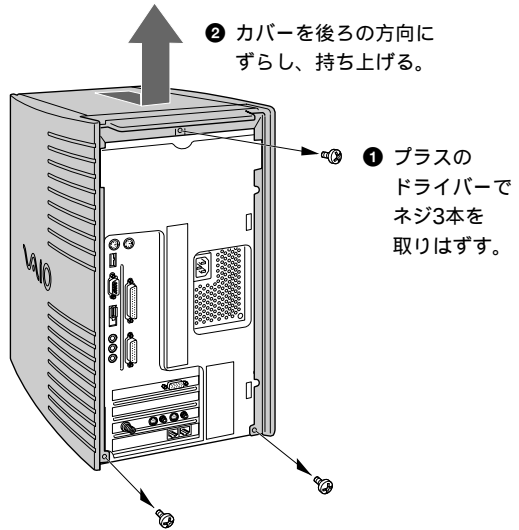
- 静電気でメモリーモジュールが破壊しないように、メモリーモジュールを取り扱うときは、次のことをお守りください。
 - メモリーを増設するときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないようにしてください。
 - 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
 - メモリーモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリーモジュールを持つときは半導体やコネクタに触れないようにしてください。
- メモリーモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。

2 後面のパネルを取りはずす。



- 3** しばらくしてから、本機後面のネジをはずし、カバーを取りはずす。
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性
があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。



ご注意

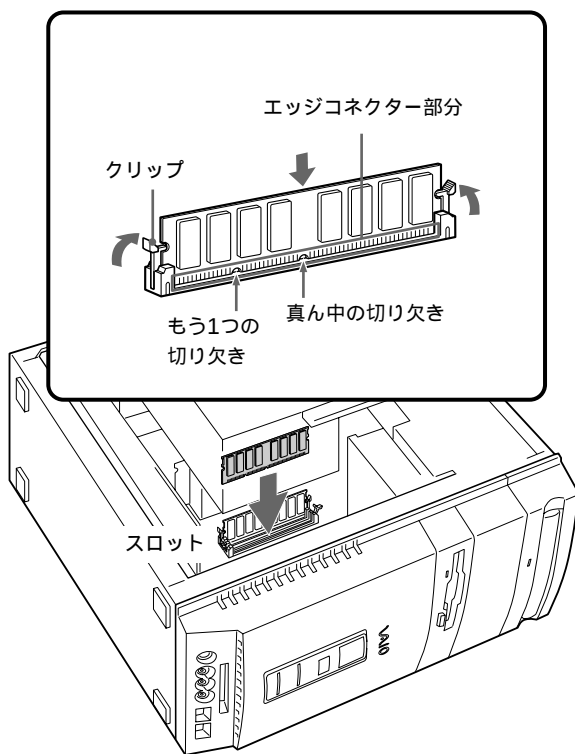
取りはずした3本のネジはカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

- 4** メモリーモジュールを梱包から取り出す。
本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリーモジュールを静電気防止袋から取り出します。
- 5** 本機を横に倒して置く。
本機の右側面が下になるように置きます。
メモリーモジュールを取り付けやすくなります。

6 メモリーモジュールを取り付ける。

メモリーモジュールにはエッジコネクター部分の真ん中に切り欠きがあり、その切り欠きによって分けられたエッジの片方にだけもう1つ切り欠きがあります。

- ① メモリーモジュールのエッジコネクター部分のもう1つの切り欠きがある方を本機の底側にしてスロットに合わせる。
- ② クリップが起き上がり、固定されるまでメモリーモジュールを垂直にスロットへ押し込む。

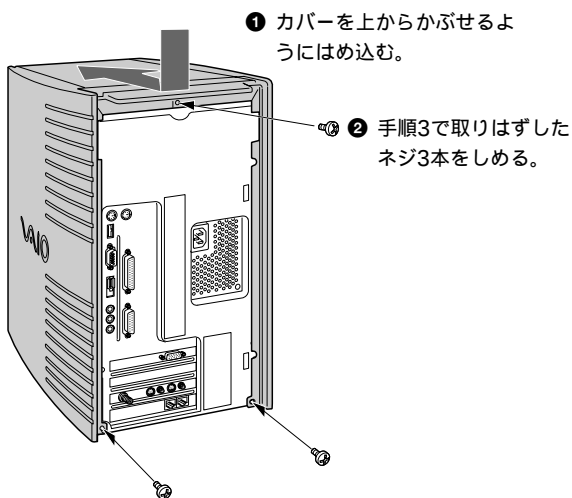


本体を拡張する

メモリーモジュールの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンク修理窓口または販売店にお問い合わせください。

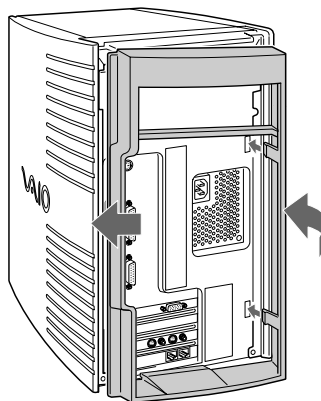
7 カバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、ネジをしめます。



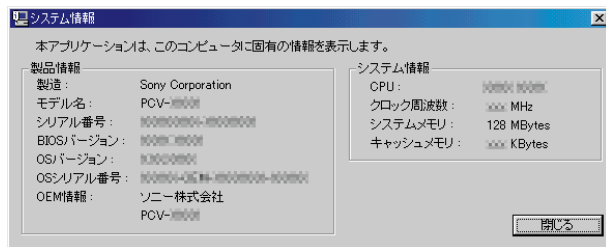
8 後面のパネルを取り付ける。

先に左側面のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



9 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

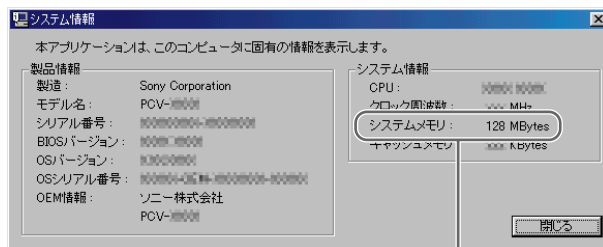
- 10 [スタート] ボタンをクリックして [VAIO] にポインターを合わせ、[ユーティリティ] を選び、[システム情報] をクリックする。
「システム情報」画面が表示されます。



- 11 「システムメモリ」の項目が増設後のメモリー容量になっていることを確認する。

メモリーの容量が正しければ、メモリーの増設は完了しました。

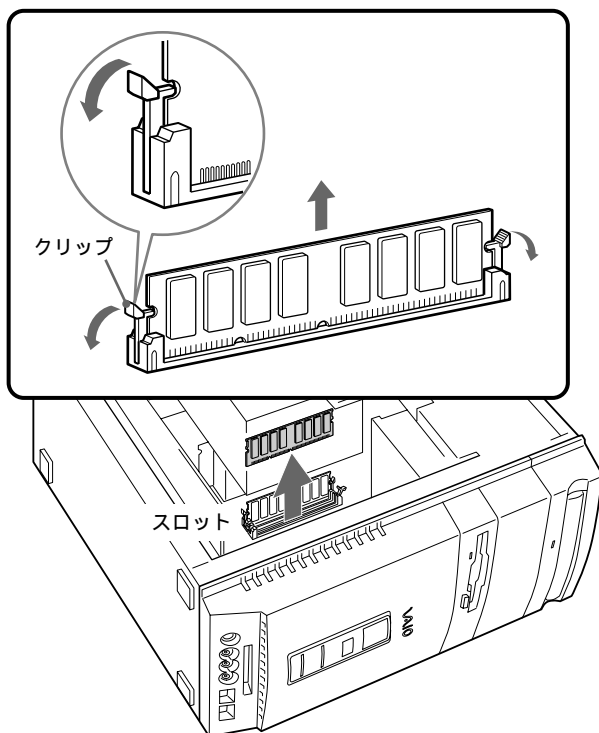
メモリーの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんメモリーモジュールを取りはずし、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



ここを確認する。

メモリーモジュールを取りはずすには

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリースロットの両端のクリップを外側に押し、メモリーモジュールをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。



ハードディスクドライブを増設する

本機内部のハードディスクドライブベイにハードディスクドライブを1つ増設することができます。

ご注意

- ハードディスクドライブの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、VAIOカスタマーリンクの「ハードディスクアップグレードサービス」をご利用されることをおすすめします。
- ハードディスクドライブ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはざさないように注意してください。
- ハードディスクドライブ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- ハードディスクドライブの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。
- ドライブベイは3.5インチサイズです。
- 増設するハードディスクドライブによっては本機で動作しないものがあります。増設について詳しくは、増設機器メーカーにお問い合わせください。
- 増設するハードディスクドライブによってはi.LINK対応機器から動画を取り込む際に制限が生じる場合があります。
- 増設するハードディスクドライブは、SLAVE(スレーブ)に設定してください。設定方法については、増設するハードディスクドライブの取扱説明書をご覧ください。

本体を拡張する

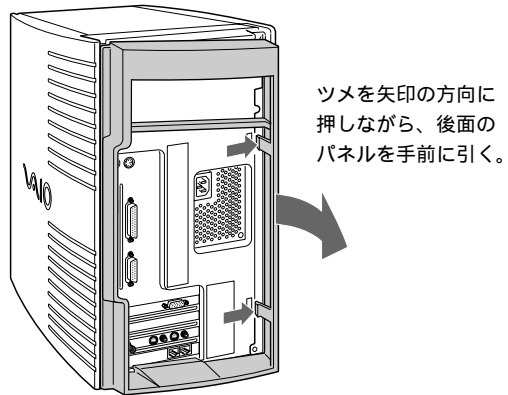
ハードディスクドライブを取り付ける

ハードディスクドライブを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。以下の手順にしたがってハードディスクドライブを取り付けます。

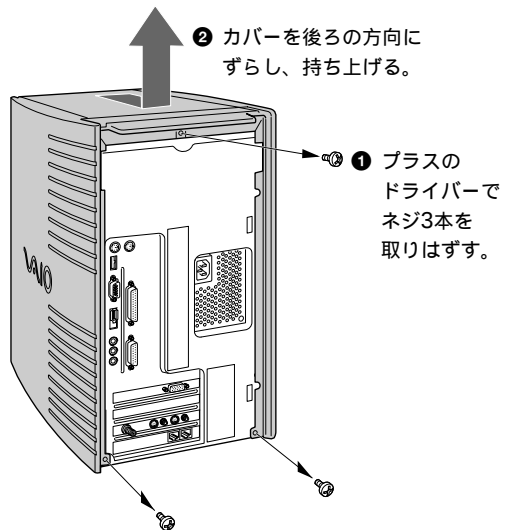
増設するハードディスクドライブの取扱説明書もあわせてご覧ください。

- 1** 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。

2 後面のパネルを取りはずす。



3 しばらくしてから、本機後面のネジをはずし、カバーを取りはずす。 電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

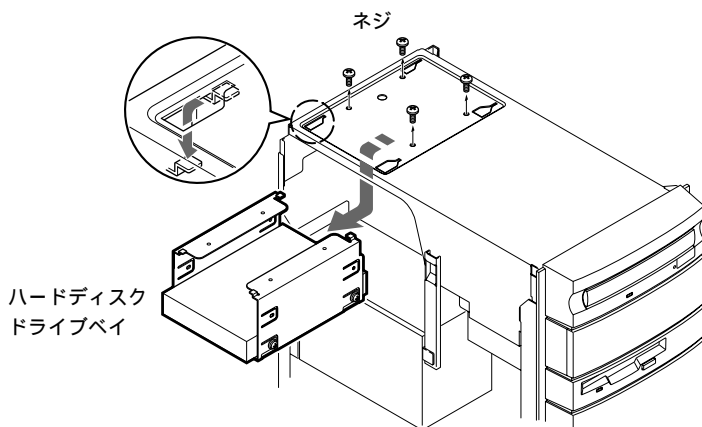


ご注意

取りはずした3本のネジはカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようご注意ください。

4 ハードディスクドライブベイを取り出す。

ネジをはずし、ハードディスクドライブベイを取り出します。

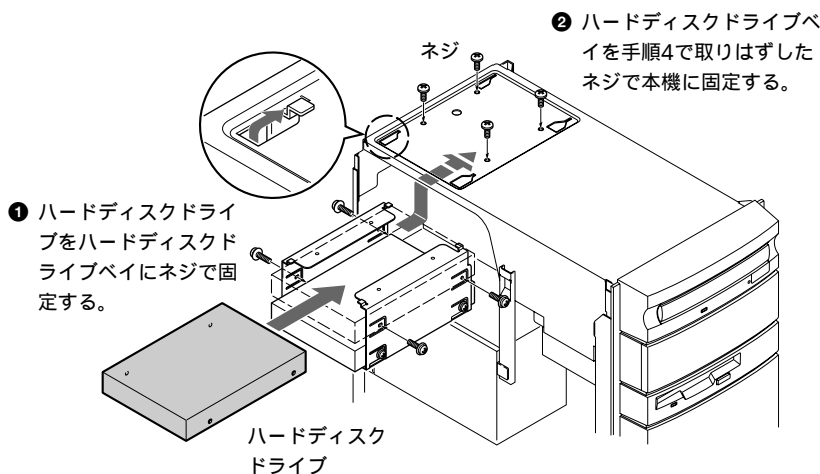


ご注意

取りはずした4本のネジはハードディスクドライブベイを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

5 ハードディスクドライブベイに増設するハードディスクドライブを取り付ける。

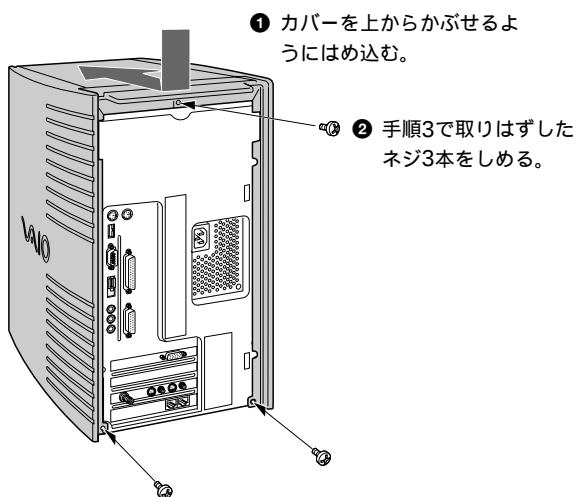
増設するハードディスクドライブをハードディスクドライブベイにネジで固定し、ハードディスクドライブベイを元の位置に取り付けます。



ハードディスクドライブの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンク修理窓口にお問い合わせください。

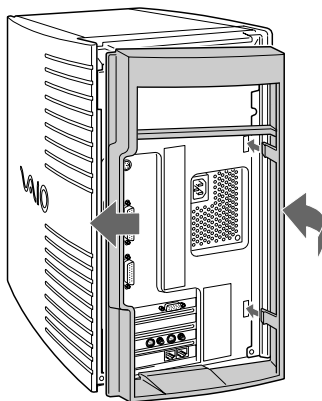
6 カバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、ネジをしめます。



7 後面のパネルを取り付ける。

先に左側面のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



ハードディスクドライブを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

その他のデバイスを増設する

本機の前面の拡張デバイスベイにDVD-ROMドライブやZIPドライブなどの拡張用のデバイスを1つ増設することができます。

ご注意

- デバイスの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電氣的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- デバイス増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはささないように注意してください。
- デバイス増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがないように注意深く作業してください。
- デバイスの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。
- 拡張デバイスベイは5インチサイズです。
- 本機の拡張デバイスベイにはSecondary (セカンダリ) IDEのコネクターが用意されています。増設するデバイスがIDEの場合は、SLAVE (スレーブ) に設定してください。
設定方法については、増設するデバイスの取扱説明書をご覧ください。
- 増設する機器によっては本機で動作しないものがあります。
増設について詳しくは、販売店または増設機器メーカーにお問い合わせください。

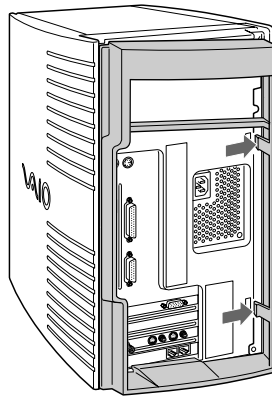
本体を拡張する

デバイスを取り付ける

デバイスを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。
以下の手順にしたがってデバイスを取り付けます。
増設するデバイスの取扱説明書もあわせてご覧ください。

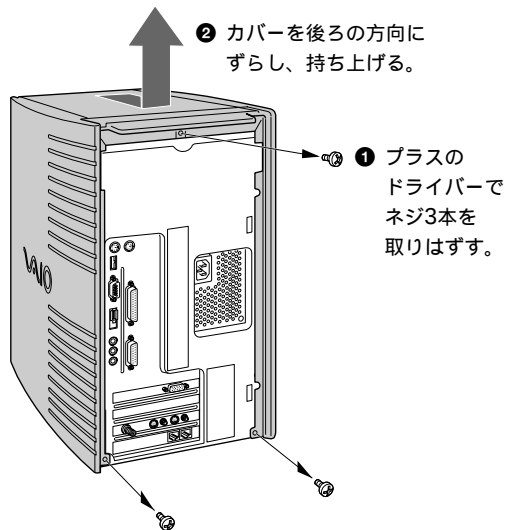
- 1** 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。

2 後面のパネルを取りはずす。



ツメを矢印の方向に押しながら、後面のパネルを手前に引く。

3 しばらくしてから、本機後面のネジをはずし、カバーを取りはずす。 電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。



① プラスのドライバーでネジ3本を取りはずす。

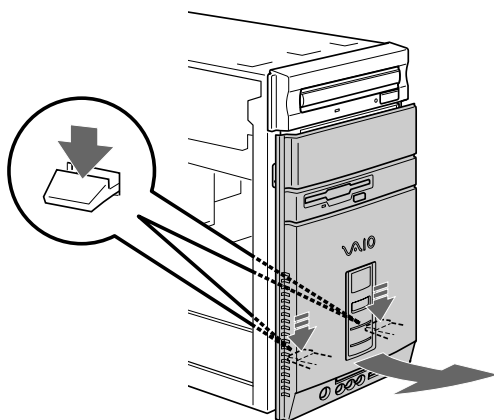
② カバーを後ろの方向にずらし、持ち上げる。

ご注意

取りはずした3本のネジはカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようご注意ください。

4 前面パネルのカバーを取りはずす。

本体の両脇から手を入れ、前面パネル裏側にあるツメを押し下げながら前面パネルを下にずらして手前にはずします。

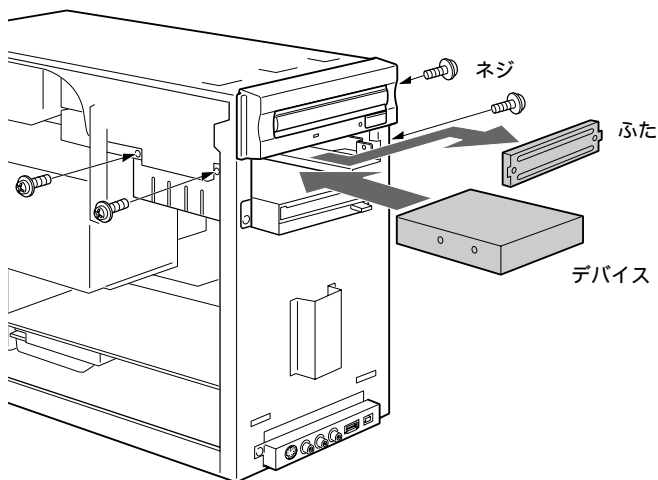


本体を拡張する

5 拡張デバイスベイのふたを取りはずし、増設するデバイスを取り付ける。

本機の拡張デバイスベイのふたを手前にはずし(109ページ)、デバイスベイに増設するデバイスをネジで固定します。

取り付けかたについて詳しくは、増設する機器の取扱説明書をご覧ください。

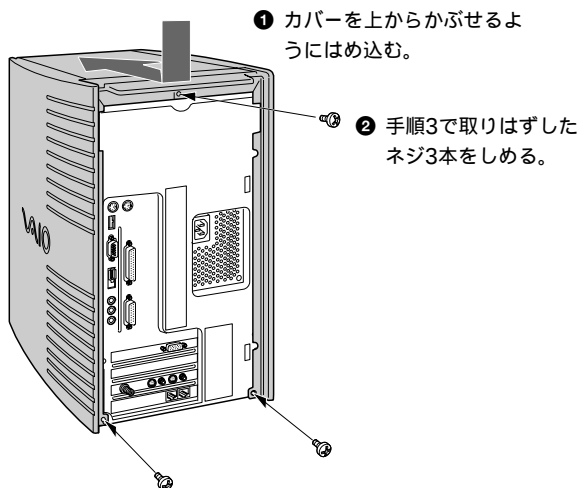


デバイスの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンク修理窓口または販売店にお問い合わせください。

次のページにつづく

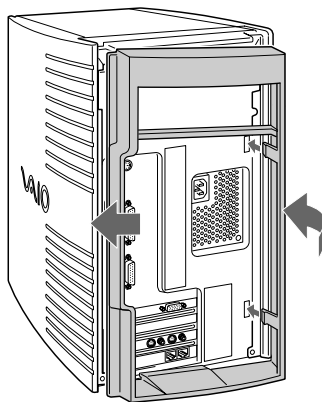
6 カバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、ネジをしめます。



7 後面のパネルを取り付ける。

先に左側面のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



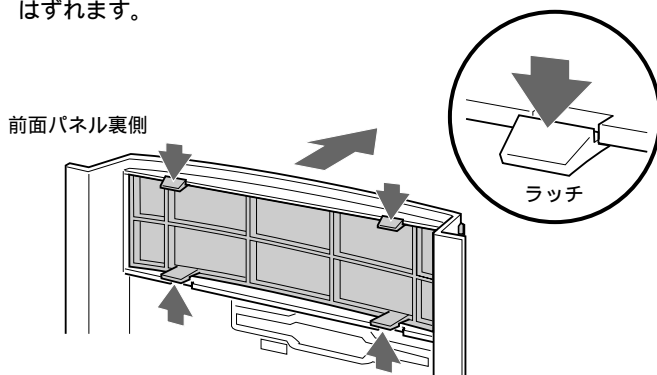
デバイスを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

前面パネルのベイカバーを取りはずす

DVD-ROMドライブなど、前面からディスクなどを挿入する機器を増設したときは、ベイカバーを前面パネルから取りはずす必要があります。

本機から前面パネルをはずした後、前面パネルの裏側から、ベイカバーのラッチを内側に押し込み、ベイカバーの中央部を外側に押すとベイカバーがはずれます。



セッ ト ア ッ プ 編

BIOSセッ ト ア ッ プメニューを使う	112
内蔵モデムを設定する	117
操作環境を自分の好みに合わせる	122

BIOSセットアップメニューの概要

BIOSセットアップとは

お買い上げになった時点で、本機のシステム構成はバッテリーでバックアップされた内部のメモリーに標準装備として記憶されています。本機を通常お使いの場合、システム構成を変更する必要はありません。

システムセキュリティを設定するときなどにBIOSセットアップメニューを使ってシステム構成の設定を行います。

ご注意

本機の起動時に、繰り返しエラーが発生する場合は、本機内部のバッテリーが消耗している可能性があります。その場合は、ご自分で設定した値をメモリーに記憶できません。バッテリーの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

BIOSセットアップメニューを起動する

本機前面の  (電源) ボタンを押し、画面に「SONY」のロゴが表示されたら、キーボードのF2キーを押します。

BIOSセットアップメニューが起動し、「CMOS SETUP UTILITY」(CMOSセットアップユーティリティ)メニュー画面が表示されます。

ご注意

本機の状態によっては、F2キーを押した後ただちにBIOSセットアップメニューが起動しないことがあります。

BIOSセットアップメニューの構成

BIOSセットアップ(CMOS SETUP UTILITY)メニューは、以下の11のメニューから構成されています。各メニューを選択することにより、システムの情報を表示させたりBIOSを設定したりできます。

- STANDARD CMOS SETUP(スタンダード CMOS セットアップ)
日付の設定や、ハードディスクの設定、フロッピーディスクドライブの設定を行う画面です。
- BIOS FEATURES SETUP(BIOS フィーチャーズ セットアップ)
基本的な機能について設定を行う画面です。
- CHIPSET FEATURES SETUP
(チップセット フィーチャーズ セットアップ)
メモリーに関する設定や、拡張バス関連の設定を行う画面です。
- POWER MANAGEMENT SETUP
(パワー マネージメント セットアップ)
省電力モードについて、各種の設定を行う画面です。
Windows 98にも省電力モードの機能がありますので、このメニューの主な設定は無効です。
- PNP AND PCI SETUP(PNP アンド PCI セットアップ)
プラグアンドプレイや、USBコネクタに関する設定を行う画面です。
- LOAD SETUP DEFAULTS(ロード セットアップ デフォルト)
BIOSの設定内容を、工場出荷時に戻すメニューです。
ご注意
「STANDARD CMOS SETUP」で設定した日付や時間、および「SUPERVISOR PASSWORD」と「USER PASSWORD」で設定したパスワードはもとに戻りません。
- SUPERVISOR PASSWORD(スーパーバイザー パスワード)
BIOSの設定を変更できるモードに入るためのパスワードを設定するメニューです。
- USER PASSWORD(ユーザー パスワード)
Windows 98の起動時やBIOSの設定を閲覧するときに必要なパスワードを設定するメニューです。

- IDE HDD AUTO DETECTION (IDE HDD オート ディテクション)
IDEインターフェースに接続されている、ハードディスクドライブのパラメーターを自動的に読み出し、各IDE関連の設定項目を構成する画面です。
- SAVE & EXIT SETUP (セーブ アンド エグジット セットアップ)
現在の設定を保存し、BIOSセットアップメニューを終了するメニューです。
- EXIT WITHOUT SAVING (エグジット ウィズアウト セービング)
現在の設定内容を破棄して、前回の設定(あるいは工場出荷時設定)の状態のまま、BIOSセットアップメニューを終了するメニューです。

それぞれのメニューの設定項目の中には、さらにサブメニューがあるものがあります。

最新のBIOSの情報やそれぞれのメニューについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。VAIOカスタマーリンクのホームページ(<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>)では、BIOSの最新かつ詳しい情報を掲載しております。

BIOSセットアップメニューでのキー操作

BIOSセットアップメニューでは、以下のキーを使って操作します。

なまえ	機能
↑ / ↓ / ← / → キー	• メニュー画面を選ぶときに押します。
Enter (エンター) キー	• サブメニューがある設定項目を選んだときに押すと、サブメニューが表示されます。
Esc (エスケープ) キー	• サブメニューや設定項目のポップアップメニューから前の画面に戻るときに押します。 • 「CMOS SETUP UTILITY」のメニュー画面が表示されているときに押すと、BIOSセットアップメニューが終了します。
F1 キー	設定項目の説明を見るときに押します。表示を消すにはもう1度F1キーを押します。
PgDn (ページダウン) / PgUp (ページアップ) キー	設定項目の設定値を変更するときに押します。
数字キー	日付やハードディスクの設定をするときに押します。

ご注意

BIOSの設定の変更はマウスを使って行うことはできません。

BIOSをお買い上げ時の設定に戻す

BIOSセットアップメニューの中のすべての設定項目をお買い上げ時の設定値に戻します。

- 1** 「CMOS SETUP UTILITY」のメニュー画面で、↑ / ↓ / ← / → キーを押して[LOAD SETUP DEFAULTS]を選び、Enter キーを押す。
「Load SETUP Defaults (Y/N)? N」というメッセージが表示されます。
- 2** Yキーを押して、メッセージの最後の「N」を「Y」に変更する。
- 3** Enterキーを押す。
- 4** ↑ / ↓ / ← / → キーを押して[SAVE & EXIT SETUP]を選び、Enterキーを押す。
「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)? N」というメッセージが表示されます。
- 5** Yキーを押して、メッセージの最後の「N」を「Y」に変更する。
- 6** Enterキーを押す。
すべての設定項目が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

お買い上げ時の設定値に戻すのを中止するには

上記手順4で EXIT WITHOUT SAVING を選び、Enterキーを押します。
設定項目は変更されません。

内蔵モデムを設定する

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、インターネットに接続するなどのデータ通信ができるようになります。本機と電話回線の接続のしかたは、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。

ここでは、内蔵モデムの設定方法について説明します。

内蔵モデムの通信速度は、データ受信時最大56kbps、データ送信時最大33.6kbpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

ダイヤル方法を設定する

以下の手順に従い、お使いの電話回線のダイヤル方法を確認し、ダイヤル方法の種類に合わせて内蔵モデムの設定をしてください。

- 1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。
電話機の受話器を上げて、ダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、電話機から「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。
ボタンではなく、ダイヤルを回す電話機、ダイヤルボタンを押すたびに電話機から「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。
- 2 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 「モデム」アイコンをダブルクリックする。
「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [ダイヤルのプロパティ]をクリックする。
「ダイヤルのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 5 「ダイヤル方法」からお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて[トーン]または[パルス]を選択し、[OK]をクリックする。
- 6 [OK]をクリックする。

内蔵モデムの設定を確認する

内蔵モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、
[コントロールパネル] をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「モデム」アイコンをダブルクリックする。
- 3 「検出結果」タブをクリックする。
- 4 モデムを選択し、[詳細情報] をクリックする。
[詳細情報...] ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

- COMポートのリソース(IRQなど)が他のデバイスと競合していないか確認します。
[システムのプロパティ] の [デバイスマネージャ] で、モデムのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。
- モデムの設定をいったん削除し、もう一度組み込み直します。
[システムのプロパティ] の [デバイスマネージャ] で、[モデム] の中の [LT Win Modem] を削除します。Windowsを再起動するとモデムが検出され、対応するドライバーが自動的に組み込まれます。

ダイヤルの設定を確認する

電話回線にうまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、モジュラーケーブルの接続を確認します。本体側のモジュラージャックと壁側のモジュラージャックの接続を確認します。

予備のケーブルがあれば、ケーブルを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、
[コントロールパネル] をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「モデム」アイコンをダブルクリックする。
- 3 [LT Win Modem] を選択し、[プロパティ] をクリックする。
- 4 [最高速度] に遅めの数値（標準は115200）を選ぶ。
- 5 少しずつ数値を小さくして試す。

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン(受話器を上げたときの「ツー」という音)の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして[設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「モデム」アイコンをダブルクリックする。
- 3 [全般] タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、[プロパティ] をクリックする。
- 4 [接続] タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。
- 5 [OK] をクリックする。
- 6 「モデムのプロパティ」の[閉じる] をクリックする。

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されるときは、プロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。

設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを設定し直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

- 1 [マイコンピュータ]をダブルクリックし、[ダイヤルアップネットワーク]をダブルクリックする。
- 2 接続先のアイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
- 3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。
特に、次の点を重点的に確認してください。
 - [全般]タブの[電話番号]の設定
 - [サーバーの種類]タブの設定
 - [サーバーの種類]タブの[TCP/IP設定]ボタンでの設定

プロトコルの設定の確認

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする。
- 3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。
特に、次の点を重点的に確認してください。
 - [現在のネットワークコンポーネント]に組み込まれているコンポーネント
 - 各コンポーネントのプロパティの設定

本機内蔵のモデムの機能について詳しくは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。VAIOカスタマーリンクのホームページ (<http://vcl.vaio.sony.co.jp>) では、本機内蔵モデムについての最新かつ詳細な情報を掲載しております。

操作環境を自分の好みに合わせる

本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー(電源を入れたままでコンピューターを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために現れる画像)などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 98のコントロールパネルで行います。

コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 98に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、[スタート]メニューから[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックします。

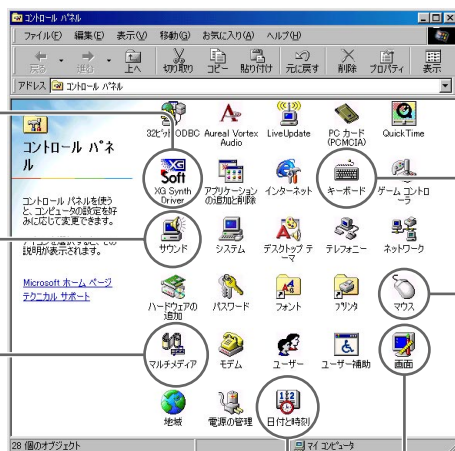
設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目のウィンドウを開き、設定を変えます。

音質の設定を変更
できます。

(135ページ)

Windows 98の
起動時や終了時の
音、警告音などを
変更できます。

音や映像の設定を
変更できます。



キーボードの設定
を変更できます。

ポインターの動きか
たを変更したり、ホ
イール機能の設定が
できます。
(137ページ)

本機に登録してある日付や
時間を変更できます。

解像度を変更したり、画面の
背景、スクリーンセーバーを
変更できます。(123ページ)

ディスプレイの設定を変更する

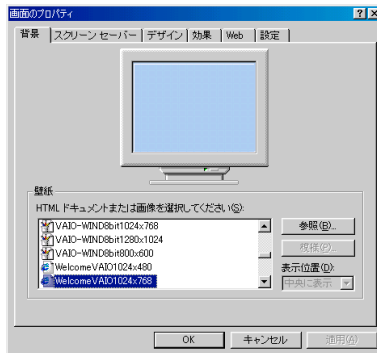
画面の背景、ウィンドウの枠の色、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、
[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 [画面]をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [背景] [スクリーンセーバー] [デザイン] [効果] [Web] [設定]の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。
設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。
- 4 設定が終了したら、[OK]または[適用]をクリックする。
手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

- 背景 (124ページ)
画面の背景について設定する画面です。
- スクリーンセーバー (124ページ)
スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。
- デザイン (125ページ)
ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。
- 効果 (126ページ)
アイコンを変更したり視覚効果を設定する画面です。
- Web (127ページ)
アクティブデスクトップについて設定する画面です。
- 設定 (128ページ)
解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景



□ 壁紙

表示したい壁紙をクリックして選ぶ。

[参照] クリックすると、壁紙にできる画像ファイルやインターネットドキュメント (HTMLファイル) を検索するウィンドウが開く。

[模様] クリックすると、デスクトップに使用する模様を選択するウィンドウが開く。

表示位置: 壁紙の表示位置をドロップダウンリストから選ぶ。

中央に表示: 壁紙が画面の中央に表示される。

並べて表示: 壁紙が画面全体に表示される。

スクリーンセーバー



□ スクリーンセーバー

ドロップダウンリスト: 使用するスクリーンセーバーをリストから選ぶ。

[設定] クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定するウィンドウが開く。

[プレビュー] クリックすると、設定したスクリーンセーバーが画面全体に表示される。

パスワードによる保護: チェックボックスをクリックすると、スクリーンセーバーがパスワードで保護される。

[変更] クリックすると、スクリーンセーバーを保護するパスワードが設定される。

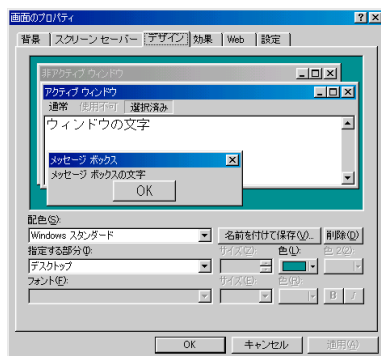
待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを選ぶ。

□ ディスプレイの省電力機能

[設定] クリックすると、ディスプレイの電源を設定するウィンドウが開く。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン



□ 配色

ドロップダウンリスト: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色をリストから選ぶ。

[名前を付けて保存] クリックすると、作成した配色に名前をつけて登録するウィンドウが開く。

[削除] 名前をつけて登録した配色を削除する。

□ 指定する部分

ドロップダウンリスト: 「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを選ぶ。

色: 指定する部分の色を選ぶ。

色2: 色を指定する部分が2つあるときに、もう1つの部分の色を選ぶ。

□ フォント

ドロップダウンリスト: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類をリストから選ぶ。

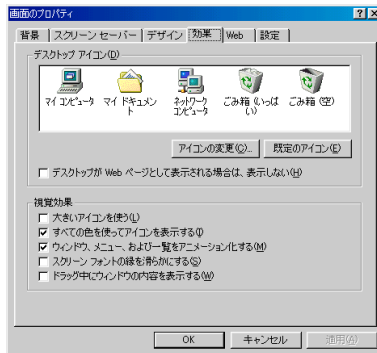
サイズ: 文字の大きさを選ぶ。

色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

I: クリックすると、文字が斜体になる。

効果



□ デスクトップアイコン

変えたいアイコンをクリックして変更します。

[アイコンの変更] クリックすると、変更できるアイコンの一覧のウィンドウが表示される。

[既定のアイコン] クリックすると、変更したアイコンをデフォルトのアイコンに戻す。

デスクトップがWebページとして表示される場合は、表示しない:

チェックボックスをクリックすると、アクティブデスクトップを使用しているときはデスクトップにアイコンを表示しないように設定する。

□ 視覚効果

大きいアイコンを使う: チェックボックスをクリックすると、デスクトップに表示されるアイコンに大きいアイコンを使用する。

すべての色を使ってアイコンを表示する: チェックボックスをクリックすると、アイコンを現在のディスプレイの種類と色の設定で使用できるすべての色を使って表示する。

ウィンドウ、メニュー、および一覧をアニメーション化する:

チェックボックスをクリックすると、ウィンドウやメニューの開きかたや閉じかたがアニメーションになる。

スクリーンフォントの縁を滑らかにする: チェックボックスをクリックすると、複雑な文字が見やすくなる。

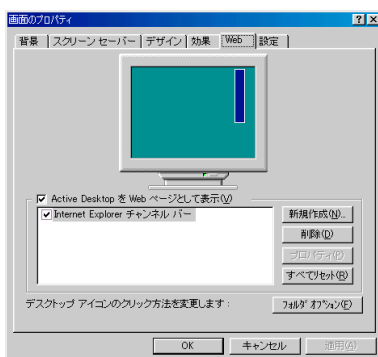
ご注意

この項目をチェックすると、表示スピードが遅くなることがあります。

ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する: チェックボックスをクリックすると、ウィンドウをドラッグするときにウィンドウを表示したままドラッグする。

Web

アクティブデスクトップについて設定する画面です。



□ Active DesktopをWebページとして表示

チェックボックスをクリックすると、アクティブデスクトップを使用するように設定される。

下のリストのアクティブデスクトップ項目のチェックボックスをクリックすると、表示するアクティブデスクトップ項目を選ぶことができます。

[新規作成] 新しいアクティブデスクトップ項目をインストールする。

[削除] 指定したアクティブデスクトップ項目を削除する。

[プロパティ] 指定したアクティブデスクトップ項目についての詳細を表示する。

[すべてリセット] デスクトップを標準の設定に戻す。

□ フォルダオプション

フォルダに関する詳細を設定するウィンドウを開く。

この項目を選ぶと「画面のプロパティ」ダイアログボックスは保存され閉じられる。

設定



□ ディスプレイ

接続されているディスプレイが表示される。

□ 色

ドロップダウンリスト: 画面の表示色数をリストから選ぶ。

ご注意

本機ではTrue Color(32ビット)に設定してお使いになることをおすすめします。

□ 画面の領域

スライダーをずらして画面の解像度を設定する。

ご注意

本機では1024×768ピクセルに設定してお使いになることをおすすめします。

□ Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする

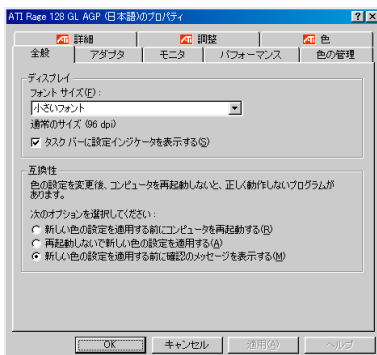
マルチディスプレイのときに有効になる。

□ [詳細]

クリックすると、フォントサイズ、リフレッシュレート、モニターを設定するダイアログボックスが表示される。

[詳細] をクリックすると、以下のオプションを設定することができます。

全般



• ディスプレイ

フォントサイズ: 画面に表示される文字の大きさの大小をリストから選ぶ。(解像度が800×600ピクセルより大きい場合のみ選べます。解像度について詳しくは、「画面の領域」(128ページ) をご覧ください。)

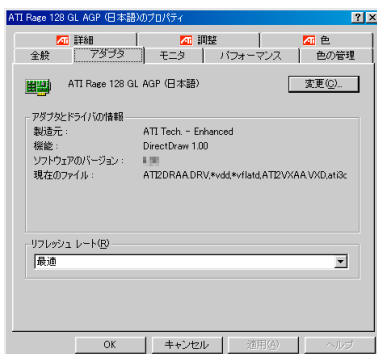
タスクバーに設定インジケータを表示する:

チェックボックスをクリックすると、設定インジケータがWindows 98のタスクバーに表示される。

• 互換性

ディスプレイの色の設定を変更するときに適用するオプションのラジオボタンをクリックして選択する。

アダプタ



- [変更]

クリックすると、新しいディスプレイアダプターのソフトウェアをインストールするためのウィザードが開く。

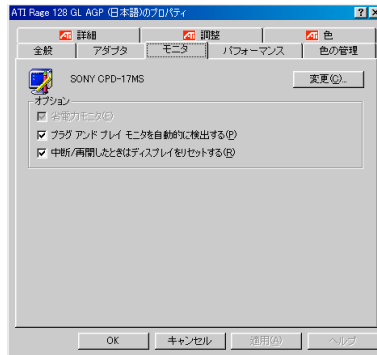
- アダプタとドライバの情報

現在使用しているディスプレイアダプターの情報が表示される。

- リフレッシュレート

変更したいリフレッシュレートをドロップダウンリストから選ぶ。

モニタ



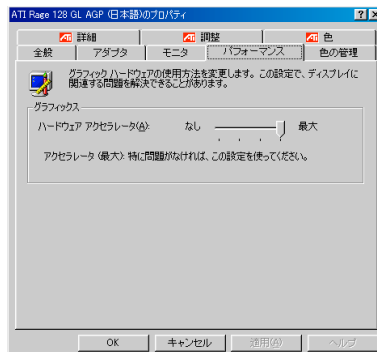
- [変更]

クリックすると、接続されているディスプレイを変更するウィンドウが出る。

- オプション

それぞれのチェックボックスをクリックして、モニタに関するオプションの設定を変更する。

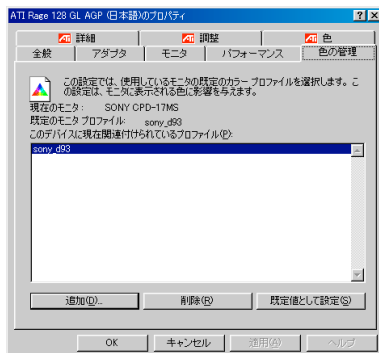
パフォーマンス



- グラフィックス

ハードウェアアクセラレータ: スライダーを動かして、ハードウェアアクセラレーターの機能をどの程度使うか指定する。

色の管理



- 現在のモニタ

接続されているディスプレイの名前が表示される。

- 既定のモニタ プロファイル

接続されているディスプレイの設定のカラープロファイルの名前が表示される。

- このデバイスに現在関連付けられているプロファイル

接続されているディスプレイに現在関連付けられているすべてのカラープロファイルの一覧が表示される。アクティブにするプロファイルをクリックして選ぶ。

- [追加]

クリックすると、このディスプレイに新しく関連付けたいカラープロファイルを選択するウィンドウが開く。

- [削除]

クリックすると、選択したカラープロファイルを一覧から削除する。

- [既定値として設定]

クリックすると、選択したカラープロファイルを既定のカラープロファイルとして設定する。

詳細



• モニタ

本機に接続しているディスプレイの最大サポート解像度と最大サポートリフレッシュレートが表示される。

• 同期

水平: ボタンをクリックして、水平同期の極性を調整する。

垂直: ボタンをクリックして、垂直同期の極性を調整する。

コンポジット: ボタンをクリックして、コンポジット同期信号の出力を入/切する。

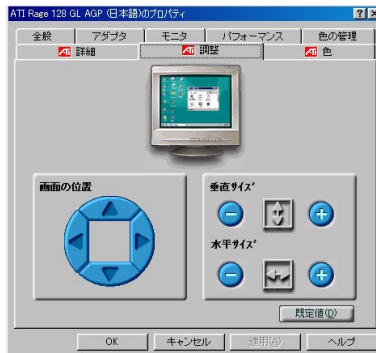
変更すると、一時的にディスプレイの表示が消えます。

• [既定値]

クリックすると、ディスプレイの同期が初期設定値に戻る。

調整

映像出力信号の調整を行う画面です。



- 画面の位置

矢印をクリックして、画面表示の位置を移動する。

- 垂直サイズ

- + ボタンをクリックすると、画面表示サイズを縦方向に拡大する。
- ボタンをクリックすると、画面表示サイズを縦方向に縮小する。

- 水平サイズ

- + ボタンをクリックすると、画面表示サイズを横方向に拡大する。
- ボタンをクリックすると、画面表示サイズを横方向に縮小する。

色

ディスプレイの色の補正を行うための画面です。グラフィックの編集をするときなどに画面に表示される色を調整できます。プリンターで印刷された色と画面に表示される色を合わせたいときに便利です。



- 色曲線

色を構成する3要素である赤、緑、青の発色を調整する。赤、緑、青それぞれのボタンをクリックし、定規をドラッグして調整する。

- 明るさ

デスクトップ: スライダーを動かしてディスプレイの色の明るさとコントラストを調整する。

オーバーレイ: スライダーを動かしてビデオオーバーレイウィンドウの色の明るさとコントラストを調整する。

- [既定値]

「色」のすべての設定値を初期状態に戻す。

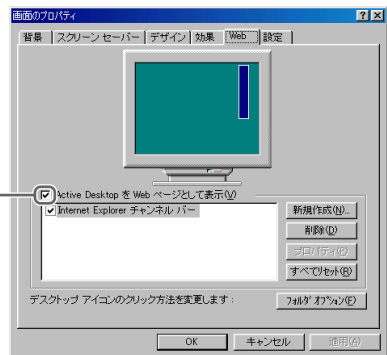
アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が通常のデスクトップ画面になっています。

このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、
[コントロールパネル] をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 [画面] をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web] タブをクリックする。
- 4 [Active DesktopをWebページとして表示] のチェックボックス
をクリックして、チェックをはずす。

ここをクリックして
チェックをはずします。

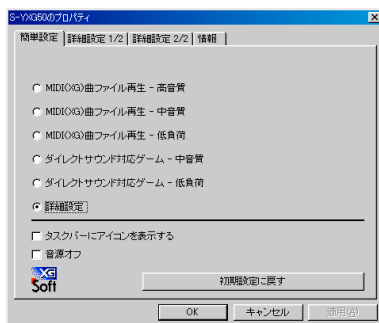


- 5 [OK] をクリックする。
Windows 98のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。

音質の設定を変更する

MIDIに対応した音楽データやゲームのBGMなどの音質を設定します。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして[設定] にポインターを合わせ、
[コントロールパネル] をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 [XG Synth Driver] をダブルクリックする。
YAMAHA SoftSynthesizerの「S-YXG50の設定」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ラジオボタンをクリックして、好みのサウンド設定を選ぶ。



詳細な設定をしたいときは、「詳細設定」を選び、[詳細設定1 / 2] および[詳細設定2 / 2]の画面で各種の設定を行います。

画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

各画面の設定項目は、以下のとおりです。

□ ウェーブテーブル音源 最大発音数

最大発音数をクリックするか、スライダーを左右に動かして選ぶ。

□ 最大CPU使用率

CPUの占有率をクリックするか、スライダーを左右に動かして選ぶ。
値が大きいほど音質が良くなります。

ご注意

CPUの占有率を上げすぎると、他のソフトウェアの動作が遅くなることがあります。

□ 受信エフェクト

各種エフェクト効果を入/切する。

リバーブ: チェックボックスをチェックすると、残響効果が加わる。

コーラス: チェックボックスをチェックすると、奥行きや厚みといった音響効果が加わる。

バリエーション: チェックボックスをチェックすると、さまざまな音響効果が加わる。

□ 音質 (サンプリング周波数)

ラジオボタンをクリックして、再生する音声のサンプリング周波数 (音声波形のきめ細かさ) を選ぶ。値が大きいほど音質が良くなります。

□ ダイレクトサウンド

ラジオボタンをクリックして、マイクロソフト社のダイレクトサウンドの使用を入/切する。ダイレクトサウンドに対応したゲームを使用する場合は「On」を選ぶ。

□ ドライバー

ドライバーの使用を入/切する。

□ オーディオデバイス

ダイレクトサウンドがオン/オフのとき、オーディオ再生デバイスを選ぶ。ダイレクトサウンドがオンの場合には、発音処理時間を調整できます。

4 設定が終了したら、[OK] をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

「YAMAHA ソフトシンセサイザー S-YXG50」ソフトウェアの使い方について詳しくは、このソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

マウスの設定を変更する

ポインターの動きかたや形など、マウスに関する設定を変更することができます。

ここでは、付属のホイールマウスの設定を変更する方法について説明します。

ご注意

- 付属のマウス以外のマウスを本機につないだときの動作保証はいたしませんのであらかじめご了承ください。
- 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスの右下の[ヘルプ]をクリックしたとき表示されるヘルプには、タッチパッド、他のマウスの追加などの説明が含まれていますが、本機ではお使いになれません。

- 1** [スタート] ボタンをクリックして[設定] にポインターを合わせ、
[コントロールパネル] をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2** [マウス] をダブルクリックする。
「マウスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3** [クイックセットアップ] [ポインタ] [ボタン] [動作] [方向] [デバイス] の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。
設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。
- 4** 設定が終了したら、[OK] または [適用] をクリックする。
手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定については、以下のページをご覧ください。

□ クイックセットアップ(139ページ)

本機に接続したマウスのセットアップを行う画面です。

□ ポインタ(139ページ)

ポインタの表示のしかたを設定する画面です。

□ ボタン(140ページ)

マウスのボタンの機能割り当てを設定する画面です。

□ 動作(141ページ)

ポインタの速度調節などを設定する画面です。

□ 方向(141ページ)

マウスの方向を設定する画面です。

□ デバイス(142ページ)

マウスの情報を表示したり、システムにマウスを追加するなどの設定をする画面です。

クイックセットアップ

使用中のマウスを表す図と、現在のボタンの割り当てを表示します。



□ [デバイスの設定]

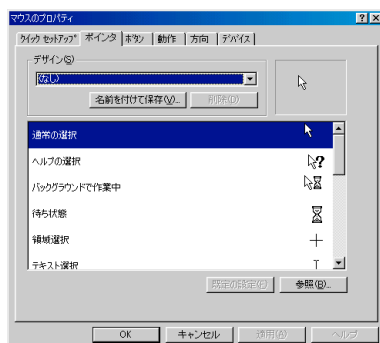
クリックすると、メーカー推奨設定に従ってマウスを再設定する。

□ タスクバーにアイコンを表示

チェックボックスをクリックすると、ディスプレイ画面上のタスクバーに「マウスウェア」アイコンが表示される。

タスクバーの「マウスウェア」アイコンをダブルクリックすることにより「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを開くことができます。

ポインタ



□ デザイン

ドロップダウンリスト: 登録されているマウスのポインターの組み合わせを選ぶ。

[名前を付けて保存] クリックすると、下のリストで設定しているポインターの組み合わせに名前を付けて登録するウィンドウが開く。

[削除] クリックすると、登録したポインターの組み合わせが削除される。

□ リスト

選択したポインターの組み合わせが一覧表示される。

OSの動作状態ごとにいろいろなデザインのポインターを割り当てることができます。

[既定の設定] クリックすると、ポインターの設定が標準に戻る。

[参照] クリックすると、そのOSの動作状態のポインターのデザインを割り当てるウィンドウが開く。

ボタン



□ ボタンの割り当て

ドロップダウンリスト: マウスの各ボタンに割り当てることができる機能を選ぶ。

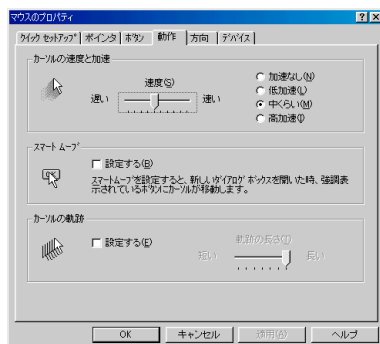
[オプション] クリックすると、さらに詳細なマウスのオプションを設定するウィンドウが開く。

□ スクローラ

スクロール速度: ホイールボタンを使ったとき、スクロールされる文章の量をドロップダウンリストから選ぶ。

Office 97互換のスクロールのみを使用: チェックボックスをクリックすると、Microsoft Office 97互換スクロールを有効にする。

動作



□ カーソルの速度と加速

スライダー: マウスを動かす距離に反応してディスプレイ画面上のポインターが移動する距離を設定する。

ラジオボタン: クリックすると、ポインターの加速が変わる。

□ スマートムーブ

設定する: チェックボックスをクリックすると、ダイアログボックスが開いたときにポインターが初期設定のコマンドボタンに自動的に移動するように設定される。

□ カーソルの軌跡

設定する: チェックボックスをクリックすると、ポインターがディスプレイ画面上を移動する際に軌道を残すように設定される。

軌跡の長さ: スライダーを動かして、ポインターの軌跡の長さを調節する。

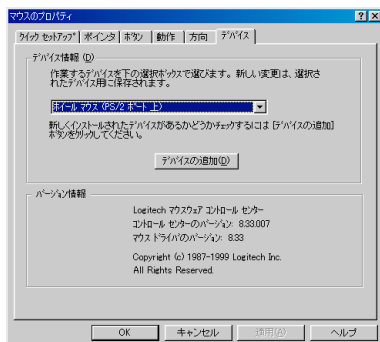
方向



□ 方向の設定

[方向の設定] クリックすると、マウスの方向を変更するウィンドウが開く。

デバイス



□ デバイス情報

ドロップダウンリスト: 本機に現在接続しているマウスが表示されるので、使用するマウスを選ぶ。

[デバイスの追加] クリックすると、本機に接続されているすべてのマウスがマウスウェアによって検出される。

□ バージョン情報

現在使用しているマウスやマウスウェアの情報が表示される。

その他

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れてください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに附着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

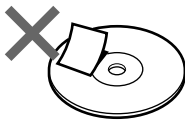
バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

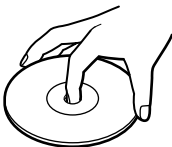
CD-ROM / CD-RW / CD-R ディスクの取り扱いについて

CD-ROM / CD-RW / CD-Rディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。CD-RW / CD-Rは記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。

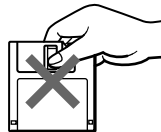


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

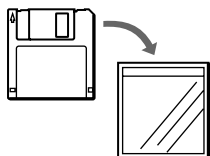
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。

その他

- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。

コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。本機にはコンピューターウイルス検査/ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

また、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを入手できます。

<http://www.nai.com/japan/>

- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。

また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。

ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。

市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

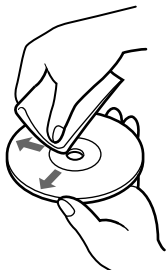
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

CD-ROMディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外側へ軽く拭きます。



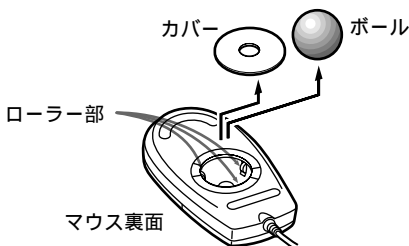
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-RW / CD-Rディスクのお手入れ

- CD-RW / CD-Rディスクは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブローワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- CD-RW / CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインターが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書と アフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは
VAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。

当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に關しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、弊社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピューターの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：PCV-R70/R60/R50/R30
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

主な仕様

プロセッサ

Pentium® プロセッサ-550MHz
(PCV-R70)
Celeron™プロセッサ-466MHz
(PCV-R60/R50/R30)

2次キャッシュ

512 Kバイト (PCV-R70)
128 Kバイト (PCV-R60/R50/R30)

メインメモリー

SDRAM-DIMM
(168ピン、unbuffered type)
標準128 Mバイト (PCV-R70)
標準64 Mバイト (PCV-R60/R50/R30)
最大256 Mバイトまで拡張可能

拡張メモリースロット

168ピン DIMMスロット×2 (空き1)

グラフィックアクセラレーター

ATI RAGE™ 128 GL AGP接続
(PCV-R70)
ATI RAGE™ 128 VR AGP接続
(PCV-R60/R50/R30)

ビデオメモリー

16 Mバイト (SDRAM) (PCV-R70)
8 Mバイト (SDRAM) (PCV-R60/R50/
R30)

表示モード

1,600×1,280ドット (1677万色)
1,280×1,024ドット (1677万色)
1,024×768ドット (1677万色)
800×600ドット (1677万色)
640×480ドット (1677万色)

* ディスプレイによって、表示されない表示
モードがあります。

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44 Mバイト / 1.2 Mバイト /
720 Kバイト

ハードディスクドライブ

約20 Gバイト (PCV-R70¹⁾)
約13 Gバイト (PCV-R60²⁾)
約10 Gバイト (PCV-R50/R30³⁾)
(1Gバイト=10億バイトで算出)
¹⁾ C:ドライブ 約3.7 Gバイト
(工場出荷時)
D:ドライブ 約15 Gバイト
²⁾ C:ドライブ 約3.7 Gバイト
(工場出荷時)
D:ドライブ 約8.3 Gバイト
³⁾ C:ドライブ 約3.7 Gバイト
(工場出荷時)
D:ドライブ 約5.6 Gバイト
(1Gバイト=1,073,741,824バイトで算出)
3.5インチ、ATAインターフェース、
Ultra DMA/33対応

CD-ROM / CD-RWドライブ

読み出し24倍速、CD-RW書き込み2倍速、
CD-R書き込み4倍速 (PCV-R70/R60)
読み出し32倍速 (PCV-R50/R30)

外部コネクタ (前面)

VIDEO 2 INPUT (PCV-R70/R60/R50のみ)
S VIDEO
ミニDIN4ピン (1)
VIDEO
ピンジャック (1)
LINE L/R
ピンジャック (左・右) (2)
i.LINK S400
IEEE 1394 準拠、4ピン (1)
USB
USB4ピン (1)

PC カードスロット

Type I / II×1、16ビットCardおよび
Cardbus対応、68ピン (1)

外部コネクタ（後面）

GAME

D-sub15ピン（1）

HEADPHONES

ステレオミニジャック（1）

KEYBOARD

PS / 2、ミニDIN6ピン（1）

MOUSE

PS / 2、ミニDIN6ピン（1）

MONITOR

VGAタイプ、15ピン（1）

SERIAL

RS-232C、D-sub9ピン（1）

PRINTER

セントロニクス社インターフェース準拠、
D-sub25 ピン（1）

USB

USB4ピン（1）

MIC

プラグインパワー方式、モノラルマイク用、
モノラルミニジャック（1）

LINE IN

ステレオミニジャック（1）

LINE

モジュラージャック（1）

TELEPHONE

モジュラージャック（1）

i.LINK S400

IEEE 1394 準拠 6ピン（1）

VHF / UHF（PCV-R70/R60/R50のみ）

VHF/UHF1軸、75ΩF型コネクタ（1）

VIDEO 1 INPUT（PCV-R70/R60/R50のみ）

S VIDEO / VIDEO

ミニDIN7ピン（1）

AUDIO

ステレオミニジャック（1）

VIDEO OUTPUT（PCV-R70/R60/R50のみ）

S VIDEO / VIDEO

ミニDIN7ピン（1）

AUDIO

ステレオミニジャック（1）

拡張スロット

PCI × 1（PCV-R70/R60/R50）

PCI × 2（PCV-R30）

サウンド機能

Aureal Vortex 2（AU8830）、AC97準拠
（PCI接続、オンボード）、3Dサウンド対応
（DirectSound 3D/A3D 2.0）

内蔵ファックスモデム

56,000bps（V. 90 / K56 Flex）/
14,400bps（ファックス時）

キーボード

OADG準拠、109キーボード

電源・その他

電源

AC 100 V±10 %（50 / 60 Hz）

消費電力

最大250 W（最大出力150 W）

エネルギー消費効率

システムスタンバイモード時

50W

i.LINK電源出力

10 ~ 12 V 6 W（合計）

動作温度

10 ~ 35（温度勾配10 / 時以下）

動作湿度

40 % ~ 80 %（結露のないこと）

保存温度

-20 ~ 60（温度勾配10 / 時以下）

保存湿度

20 % ~ 80 %（結露のないこと）

外形寸法

本体: 約220 × 352 × 394 mm

（幅 / 高さ / 奥行き、最大突起部を含まず）

キーボード: 約480 × 37 × 190 mm

（幅 / 高さ / 奥行き、最大突起部を含まず）

質量

本体: 約12.0 kg

キーボード: 約1.65 kg

付属品

「はじめにお読みください」をご覧ください。

対応ディスプレイ

CPD-17MS
CPD-201VS
CPD-101VS
CPD-L200など

増設メモリーモジュール

PCVA-MM64P
PCVA-MM128P

ハードディスクドライブ増設サービス

PCVA-IH200

仕様および外観は、改良のため予告なく変更
することがありますがご了承ください。

高調波電流規制について
この装置は、高調波ガイドライン適合品で
す。

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のプロダクト リカバリ CD-ROM(以降、リカバリ CDと略します)を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

リカバリ CDには、工場出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリ CDを使ってハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。

詳しくは「パーティションサイズを変更する」(158ページ)をご覧ください。

ご注意

- このリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- このリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前C:ドライブにあったファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあったファイルは残ります。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません。再セットアップを行う前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう一度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリ CDで再セットアップしたあと、続いてWindows 98のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドの表紙に記載されている、プロダクト キーが必要になります。Microsoft Windows 98ファーストステップガイドは大切に保管してください。
- BIOSの設定を標準設定にしてから再セットアップしてください。

その他

再セットアップする

再セットアップする前に、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。

以下の手順に従って再セットアップします。

- 1** 付属の「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol. 1 of 2」をCD-ROM / CD-RWドライブに入れる。
入れかたについて詳しくは、「CD-ROM / CD-RWを使う」(45ページ)をご覧ください。
- 2** Windows 98が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。
Windows 98の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」(26ページ)をご覧ください。
- 3** 30秒ほど待ってから、 (電源) ボタンを押して本機の電源を入れる。
しばらくするとCD-ROM / CD-RWドライブから起動し、リカバリCD上のプログラムが動作します。
- 4** 画面の指示に従って操作する。
画面の指示に従って操作をしていくと、メニュー画面が表示されます。
- 5** 再セットアップ方法を選ぶ。
ハードディスクを初期化してファイルを復元するときは1、ハードディスクを初期化せずにファイルを復元するときは2、再セットアップを中止するには3を選びEnterキーを押します。
パーティションサイズを変更するときは、1を選びます。詳しくは、「パーティションサイズを変更する」(158ページ)をご覧ください。
- 6** 画面の指示に従って操作する。
- 7** 「2枚目のディスクを入れてください。何かキーを押すと、コンピューターを再起動して、リカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 2」をCD-ROM / CD-RWドライブに入れる。
- 8** 画面の指示に従って操作する。

- 9** 「CD-ROMを取り出してから何かキーを入力してください。」というメッセージが表示されたら、リカバリ CDを取り出してから何かキーを押す。
再セットアップが終了します。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。詳しくは、「BIOSをお買い上げ時の設定に戻す」(116ページ)をご覧ください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate motion」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（工場出荷時）。付属のリカバリCDを使ってパーティションサイズを変更し、「DVgate motion」ソフトウェアなどのデータスペースとして使うD:ドライブを大きくしたり、あるいはWindows 98がインストールされるC:ドライブを大きくすることができます。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

- 1 「再セットアップする」(156ページ)の手順1～4を行う。
- 2 メニュー画面が表示されたら、「1.ハードディスクをフォーマットしたうえですべてのファイルを復元する」を選び、Enterキーを押す。
- 3 「2.パーティションサイズを変更してフォーマットを行う」を選び、Enterキーを押す。
パーティションサイズの選択画面が表示されます。
サイズを変更せずに初期化してすべてのファイルを復元する場合は、1を選びEnterキーを押してください。
- 4 パーティションサイズを選ぶ。
お好みのパーティションサイズを選び、Enterキーを押します。
自動的にパーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。
サイズの変更を中止する場合は、Nキーを押してからEnterキーを押すと手順3の画面に戻ります。
- 5 画面の指示に従ってC:ドライブおよびD:ドライブを初期化する。
Yキーを押してからEnterキーを押すとドライブが初期化されます。

- 6 画面の指示に従って操作する。
操作を続けるかどうかを聞かれたときはYキーを押し、Enterキーを押してください。
- 7 手順2のメニュー画面が表示されたら、「2.ハードディスクをフォーマットせずにすべてのディスクを復元する」を選び、Enterキーを押す。
- 8 画面の指示に従って操作する。
操作を続けるかどうかを聞かれたときはYキーを押し、Enterキーを押してください。
- 9 「再セットアップする」(156ページ)の手順7～9を行う。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Windowsキーを押しながらFキーを押す。→  + F

組み合わせ	機能
 + F1	Windowsのヘルプを表示します。
 + Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
 + E	エクスプローラー ¹⁾ を表示します。
 + F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]を選んだときと同じです。
 + Ctrl + F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]を選んだときと同じです。
 + M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift +  + M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
 + R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから「ファイル名を指定して実行...」を選んだときと同じです。

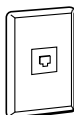
¹⁾ コンピューターの内容(ファイルやフォルダー)をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

電話回線のコンセントの種類

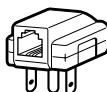
電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリー
---------	---------------------

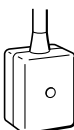
モジュラー型	不要（そのままつなぐことができます）
--------	--------------------



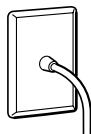
3ピンジャック型	テレホンモジュラーアダプターTL-30
----------	---------------------



直付け型ローゼット ¹⁾	モジュラーローゼットTL-32CRなど
-------------------------	---------------------



埋め込み型 ²⁾	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31
---------------------	-------------------------



¹⁾ 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

²⁾ 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

動画系ソフトウェア入出力データ関連表

本機には動画を扱うソフトウェアが数多く付属しています。どのソフトウェアを使うとどのような種類のデータを本機に入力できるのか、入力データをどのような種類のデータに変換できるのか、およびどのような種類のデータを本機から出力できるのかという関係を以下の表で示します。

この関連表をお使いいただくと、動画データを活用する目的によってどのソフトウェアを使えばよいかが簡単に分かります。

ご注意

「Giga Pocket」ソフトウェアでMPEG1またはMPEG2ファイルを作るには、「ビデオカプセル」を書き出す必要があります。「ビデオカプセル」は、MPEGの動画データと各種の付加情報を統合したソニー独自のファイル形式です。

「Giga Pocket」ソフトウェアでMPEG1またはMPEG2ファイルを再生するには、「ビデオエクスプローラ」で読み込みをする必要があります。

PCV-R70/R60をお使いのかたは

出力 入力	アナログ 出力 ⁷⁾	ディスプレイ 出力	デジタル 出力 ⁸⁾	MPEG1 ファイル ⁴⁾	MPEG2 ファイル ⁵⁾	AVI (DV) ファイル ⁶⁾	AVI (非圧縮) ファイル ⁹⁾	AVI (圧縮) ファイル ¹⁰⁾
アンテナ 入力 ¹⁾	Giga Pocket					DVgate motion	Smart Capture	
アナログ 入力 ²⁾	Giga Pocket					DVgate motion	Smart Capture	
デジタル 入力 ³⁾	Giga Pocket			Giga Pocket		DVgate motion	Smart Capture	
MPEG1 ファイル ⁴⁾	Giga Pocket			(ファイルの コピー)				
MPEG2 ファイル ⁵⁾	Giga Pocket				(ファイルの コピー)			
AVI (DV) ファイル ⁶⁾	DVgate motion			DVgate clip / assemble		(ファイルの コピー)		
AVI (非圧縮) ファイル ⁹⁾							(ファイルの コピー)	Smart Capture
AVI (圧縮) ファイル ¹⁰⁾								(ファイルの コピー)

PCV-R50をお使いのかたは

出力 入力	アナログ 出力 ⁷⁾	ディスプレイ 出力	デジタル 出力 ⁸⁾	MPEG1 ファイル ⁴⁾	MPEG2 ファイル ⁵⁾	AVI (DV) ファイル ⁶⁾	AVI (非圧縮) ファイル ⁹⁾	AVI (圧縮) ファイル ¹⁰⁾
アンテナ 入力 ¹⁾	Giga Pocket			Giga Pocket				
アナログ 入力 ²⁾	Giga Pocket			Giga Pocket				
デジタル 入力 ³⁾						DVgate motion	Smart Capture	
MPEG1 ファイル ⁴⁾	Giga Pocket			「ファイルの コピー」				
MPEG2 ファイル ⁵⁾	Giga Pocket				「ファイルの コピー」			
AVI (DV) ファイル ⁶⁾		DVgate motion		DVgate clip / assemble		「ファイルの コピー」		
AVI (非圧縮) ファイル ⁹⁾							「ファイルの コピー」	Smart Capture
AVI (圧縮) ファイル ¹⁰⁾								「ファイルの コピー」

PCV-R30をお使いのかたは

出力 入力	ディスプレイ 出力	デジタル 出力 ⁸⁾	MPEG1 ファイル ⁴⁾	AVI (DV) ファイル ⁶⁾	AVI (非圧縮) ファイル ⁹⁾	AVI (圧縮) ファイル ¹⁰⁾
デジタル 入力 ³⁾				DVgate motion	Smart Capture	
MPEG1 ファイル ⁴⁾			「ファイルの コピー」			
AVI (DV) ファイル ⁶⁾	DVgate motion		DVgate clip / assemble	「ファイルの コピー」		
AVI (非圧縮) ファイル ⁹⁾					「ファイルの コピー」	Smart Capture
AVI (圧縮) ファイル ¹⁰⁾						「ファイルの コピー」

その他

- 1) アンテナ入力：テレビチューナーなどからの映像入力です。
- 2) アナログ入力：ビデオデッキなどからのアナログ映像入力です。
- 3) デジタル入力：デジタルビデオカメラレコーダーなど、i.LINK対応機器からのデジタル映像入力です。
- 4) MPEG1ファイル：ビデオCDなどに使われている動画データの圧縮方式です。
- 5) MPEG2ファイル：MPEG1より高画質の動画データの圧縮方式です。
- 6) AVI (DV) ファイル：Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。「DVgate motion」ソフトウェアでは、DV形式で圧縮されたAVIファイルのみを扱っています。
- 7) アナログ出力：ビデオデッキなどへのアナログ映像出力です。
- 8) デジタル出力：デジタルビデオカメラレコーダーなど、i.LINK対応機器へのデジタル映像出力です。
- 9) AVI (非圧縮) ファイル：「Smart Capture」ソフトウェアで取り込んだ動画ファイルを「Movie Player」ソフトウェアでファイルの種類を「AVI」、タイプを「非圧縮」に指定して保存したファイル形式です。
- 10) AVI (圧縮) ファイル：「Smart Capture」ソフトウェアで取り込んだ動画ファイルを「Movie Player」ソフトウェアでファイルの種類を「AVI」、タイプを「圧縮」に指定して保存したファイル形式です。
「Smart Capture」ソフトウェアを使って電子メールに添付して送れるのはこの形式のファイルです。

例1) PCV-R70で、

AVIファイルを「DVgate motion」ソフトウェアを使ってアナログ出力することはできるが、どのソフトウェアを使ってもMPEG2ファイルに変換して出力することはできない。

例2) PCV-R50で、

AVIファイルをどのソフトウェアを使ってもアナログ出力することはできない。MPEG2ファイルに変換して出力することもできない。

故障かな？と思ったら

VAIOカスタマーリンクにご相談になる前にもう一度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはお買い上げ店またはVAIOカスタマーリンクにご相談ください。

ご注意

接続し直すときは、かならず「電源を切る」(26ページ)の手順にしたがい、いったん電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

症状	原因 / 対策
電源が入らない。	→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。 → すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。
画面に何も表示されない。	→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。 → 本機とディスプレイを正しく接続する。 → 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。 → ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
画像が乱れる。	→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。
画質が悪い。	→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
画像の両端が欠ける。	→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
表示サイズ、 表示位置がおかしい。	→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

その他

症状	原因 / 対策
CD-ROMが再生されない、またはCD-ROMの再生時、音がとぎれる。	→ CD-ROMをCD-ROM / CD-RWドライブに入れてください。 → CD-ROMが正しくCD-ROM / CD-RWドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。 → CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。 → CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。 → 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。
CD-RW / CD-Rが取り出せない。	→ CD-RW / CD-RはCD-ROMイジェクトボタンを押しても状態によっては取り出せないことがあります。取り出し方については「DirectCD」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。
CD-ROMが取り出せない。	→ 49ページをご覧ください。
画面上のポインターが動かない。	→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。 → マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。(148ページ) 上記の操作をしても動かないとき → キーを押して[スタート]メニューを表示させ、↑キーまたは↓キーを押して[Windowsの終了]を選んで、Enterキーを押す。そのあと↑キーまたは↓キーで[再起動する]を選び、Enterキーを押して再起動する。 → キーを使って電源を切れない場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して、本機を再起動する。 → CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、再生中のCD-ROMを強制的に終わらせ、本機を再起動する。
スクロールしない	→ スクロール設定の方法が間違っている。スクロール方向の設定を確認してください。(137ページ) → スクロール機能に対応していないソフトウェアを開いている。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。
マウスを動かしてもカーソルが動かない	→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。
ホイールボタンを押してもオートスクロールできない	→ ホイールボタンの動作設定を変更している。動作設定を確認してください。(137ページ)

症状	原因 / 対策
電源を入れた後、 「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key.」 というメッセージが出て、 ハードディスクを 立ち上げられない。	→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。 その後、Enterキーを押す。
「マイコンピュータ」から フロッピーディスクを 選んで初期化しようとしたが できない。	→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。 タブを動かして書き込み可能にする。(52ページ) → フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 → 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」 というメッセージが表示され、 ファイルなどをフロッピー ディスクに保存できない。	→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。
「書き込み禁止」という メッセージが表示された。	→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。 タブを動かして書き込み可能にする。(52ページ)
スピーカーから 音が出ない。	→ ソニートリニトロンマルチメディアコンピューターディスプレイCPD-17MSなどをお使いの方は、ディスプレイのケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。 → ディスプレイのミュートボタンが「ON」になっていないか確認する。 → ディスプレイの内蔵スピーカーの音量が最小になっている。音量ボタンで音量を上げる。 → アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーの音声ケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。 → アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。 → Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。画面上のタスクトレイのスピーカーアイコンをダブルクリックして、音量を上げる。

症状	原因 / 対策
日本語が入力できない。	→ 「文字を入力する」(36ページ)をご覧ください。
入力した文字が表示されない。	→ 文字を入力したいソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。(画面上では薄い色のウィンドウになります。)ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。 → 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。
マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。	→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。
ハードディスクから起動できない。	→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。 → CD-ROM / CD-RWドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(155ページ)をご覧ください。
ハードディスクの内容を誤って消してしまった。	→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(155ページ)をご覧ください。
「CMOS Battery Bad」 というメッセージが表示される。	→ 本機内のバッテリーが消耗しているため、バッテリーを交換する必要があります。バッテリーの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。
「CMOS Checksum Error」 というメッセージが表示される。	→ BIOSの設定内容が壊れている。BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。(116ページ) → BIOSを工場出荷時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリーが消耗しているため、バッテリーを交換する必要があります。バッテリーの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。
画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。	→ CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押して、本機を再起動する。 → 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、電源をいったん切ってから入れ直す。

症状	原因 / 対策
インターネットに接続できない。	→ 本機が電話回線に正しく接続されているか確認する。詳しくは「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。 → ディスプレイ画面上の[インターネットに接続]アイコンをダブルクリックして設定を確認する。 → TELEPHONEジャックにつないだ電話機の受話器を取り、発信音がするかどうか確認する。 → 内蔵モデムがWindows 98に正しく認識されているか確認する。(118ページ) → 本機に接続できる回線は、一般アナログ電話回線です。ダイヤル方法を確認してください。(117ページ) → インターネット接続について詳しくは、付属の「はじめのインターネット!」をご覧ください。 → 接続後に、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで使用状況に合わせて設定しなければならない場合があります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。 上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしている接続会社にお問い合わせください。
内蔵モデムからダイヤルできない。	• お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。(117ページ) • 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。(119ページ) • テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。 • 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間を置いてからリダイヤルしてください。 • 「内蔵モデムの設定を確認する」(118ページ)をご覧ください。
モデムはダイヤルしているが、接続できない。	「ダイヤルの設定を確認する」(119ページ)をご覧ください。

症状	原因 / 対策
「DVgate motion」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画が正常にできない。	• 本機につないだ機器が正しく接続されているか確認する。(68、75、77ページ) • 「DVgate motion」または「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。
作成したビデオCDが再生できない。	「DVgate motion」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
PCV-R70はCPUとしてPentiumプロセッサを、PCV-R60/R50/R30はCeleronプロセッサを搭載しているのに、「システムのプロパティ」画面に「Pentium 」と表示される。	Windows 98の仕様で「Pentium 」と表示されます。CPUの種類は[VAIO] - [ユーティリティ] - [システム情報] でご確認ください。

索引

五十音順

ア

アクティブデスクトップ	127、134
アンテナ	61、75
インターネット	55
オートスクロール	32
音楽CD	50、64
オンラインマニュアル	17

カ

拡張ボード

拡張スロット	84、89
種類	84
増設する	84
取り付ける	87
取りはずす	90
プラグアンドプレイ	84
リソース	85
PCI拡張ボード	84

キーボード

キーボードショートカット	160
キーボードを掃除する	149
キーボードを使う	33

クリック

クリック	29
ダブルクリック	29
右クリック	30

結露

コントロールパネル	122
コンピューターウイルス	146

サ

さばり	65
システムスタンバイモード	27
省電力機能	
ディスプレイ	125
ジョイスティック	83
初期化	53
ズーム	32

スクロール

オートスクロール	32
スクロール	31

静止画

電子メールで送る	59
取り込む	58

接続

アンテナ	75
ジョイスティック	83
テレビ	80
ビデオカメラレコーダー	77
ビデオデッキ	77
プリンター	81
i.LINK対応機器	68
MIDI機器	83
USB機器	82

操作環境の変更

アクティブデスクトップの変更	134
音質の設定変更	135
コントロールパネル	122
ディスプレイの設定変更	123
マウスの設定変更	137

ソフトウェア

さばり	65
不正コピー禁止について	147
ワードパッド	36
Adobe PhotoDeluxe	14
Adobe Premiere	14、60
DirectCD	45
DVgate motion	14、56、60、162
DVgate still	14、58
Giga Pocket	14、61、77、80、162
Media Bar	15、64
Navin' You	65
PictureGear	14、65
Smart Capture	14、56、58、162
Smart Connect	14、62
YAMAHA Soft Synthesizer S-YXG50	
	135

その他

タ

ターミナルアダプターカード	91
ダブルクリック	29
ディスプレイ	
お手入れ	148
省電力機能	125
ディスプレイの設定変更	123
ディスプレイの設定	
効果	126
スクリーンセーバー	124
設定	128
デザイン	125
背景	124
Web	127
デジタルビデオカメラレコーダー	56、58、68
データ	
書き込み禁止にする	52
バックアップをとる	2、145、147
やりとりする	62
データズーム	32
デバイス	
増設する	105
取り付ける	105
取りはずす	108
テレビ	
テレビにつなぐ	80
テレビを見る	14
番組を録画 / 再生する	61
電源	
再起動する	27
電源を入れる	24
電源を切る	26
電話回線	
コンセントの種類	161
動画	
電子メールで送る	57
動画系ソフトウェア入出力データ関連表	162
取り込む	56、60
ドライバー	81、86
ドラッグする	30

ナ

日本語入力	36
内蔵モデム	
設定を確認する	118
ダイヤル方法を設定する	117
ダイヤルの設定を確認する	119
ネットワークカード	91

ハ

パーティション	158
ハードディスク	
増設する	101
取り扱いについて	144
取り付ける	101
取りはずす	104
バックアップをとる	2、145、147
バックアップをとる	2、145、147
パン	31
ビデオカメラレコーダー	61、77
ビデオデッキ	61、77
ビデオ編集	60
ビデオCD	50、64
フォーマット	
CD-R	46
CD-RW	46
プラグアンドプレイ	84
プリンター	81
フロッピーディスク	
入れる	51
使用できるフロッピーディスク	53
初期化する	53
データを書き込み禁止にする	52
取り扱いについて	145
取り出す	52
フロッピーディスクドライブ	51
ペイカバー	109
ヘルプ	18
ホイールボタン	31
ポインター	28
ポインタする	29

マ

マウス

マウスを掃除する	148
マウスを使う	28
右クリック	30
メモリーカード	91
メモリスティック	63、91
メモリーモジュール	
増設する	94
取り付ける	94
取りはずす	100
文字入力	36
モデム	
設定を確認する	118
ダイヤル方法を設定する	117
ダイヤルの設定を確認する	119
モデルの構成	12

ラ

リカバリ CD	155
リソース	85

ワ

ワードパッド	36
--------------	----

アルファベット順

A

Adobe PhotoDeluxe	14
Adobe Premiere	14、60
AV機器	
アンテナ	61、75
テレビ	80
ビデオカメラレコーダー	61、77
ビデオデッキ	61、77

B

BIOSセットアップメニュー	
お買い上げ時の設定に戻す	116
キー操作	115
起動する	112
終了する	115
メニュー構成	113

C

CD-Extra	50
CD-R	
入れる	47
お手入れ	148
使用できるディスク	50
取り扱いについて	145
フォーマットについて	46
CD-ROM	
入れる	47
お手入れ	148
使用できるディスク	50
取り扱いについて	145
取り出す	48
CD-ROM / CD-RWドライブ	47
CD-RW	
入れる	47
お手入れ	148
使用できるディスク	50
取り扱いについて	145
フォーマットについて	46
CD TEXT	50
CyberCode	15

D

DirectCD	45
DVgate motion	14、56、60、162
DVgate still	14、58

G

Giga Pocket	14、61、77、80、162
-------------------	-----------------

I

i.LINK対応機器	
静止画を取り込む	58
接続	68
データをやりとりする	62
動画を取り込む	56、60
i.LINKとは	70

M

Media Bar	15、64
MIDI機器	83

N

Navin' You	65
------------------	----

P

PCカード	
使う	91
データをやりとりする	63
取り出す	93
取り付ける	92
PCカードとは	91
PCI拡張ボード	84
PictureGear	14、65

S

SCSIカード	91
Smart Capture	14、56、58、162
Smart Connect	14、62

T

TAカード	91
-------------	----

U

USB機器	82
-------------	----

V

V/Uミキサー	76
---------------	----

W

Windows 98	25、122
------------------	--------

Y

YAMAHA Soft Synthesizer S-YXG50	
.....	135

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で利用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法(技術標準)に違反する行為となります。工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

- VAIIOはソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ"  "は商標です。
- “Memory Stick”(“メモリースティック”)および **MEMORY STICK** は、ソニー株式会社の商標です。
- CyberCodeはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- Intel、MMX、Pentium、CeleronはIntel Corporationの商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのパソコンに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

Sony  line <http://www.world.sony.com/>

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川16-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは

VAIOカスタマーリンクへ

● 0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは

VAIOカスタマー専用デスクへ

● 03-3584-6651

VAIOホームページ

VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。

● <http://www.vaio.sony.co.jp/>

VAIOカスタマーリンク ホームページ

VAIOの最新サポート情報をご案内します。

● <http://vcl.vaio.sony.co.jp/>

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan